

| | | | |
|-------------------------|--|------------------------------------|----|
| 授業科目 | 学級経営論【講義】 | 開講時期 | 後期 |
| 担当教員 | 石原 努 | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | 学級経営に関する課題（今日的課題や教師に関する課題）について多面的な視点から考え検証したり、学級の組織づくりに必要な教育技術に関する理論を学んだりすることを通して、学級担任の役割の重要性を理解することを目的とする。また、具体的な学級経営の方針を立て、よりよい学級集団づくりに向けた取り組みを考える等して、学級経営案を作成することを目的とする。 | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・学級経営の課題に関する情報を収集することができる。また、その課題に対応した具体的方策を立案することができる。 ・よりよい学級経営を行うために必要な教師の指導技術や要因について説明することができる。 ・子どもの実態を踏まえた学級経営のゴールの姿を描き、その実現に向けた具体的な方策を考えることができる。 ・よりよい学級経営を行っていくための方針を示した学級経営案を構想することができる。 | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | <p>初 (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。</p> <p><授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は小学校教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p> | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | |
| 第1回 | 講義のオリエンテーション、及び、学級経営の概要説明 | 現時点での自分が描く学級経営のゴールの姿をまとめる。 | |
| 第2回 | 学級担任の仕事内容の全体像を理解する。 グループワークを行い、学級担任の仕事内容をカテゴリー化する。 | 学級担任の仕事概要を整理する。 | |
| 第3回 | 教員の資質・能力、及び、教育理念 ディスカッション等を通して、自分の教育観について整理する。 | 自分なりの教育理念についてまとめる。 | |
| 第4回 | 集団形成①「学級風土づくりと教師の関わり」 グループワーク等を通して、学級における支持的風土づくりについて整理する。 | 自分の過去や教育実習等の経験談を通して考えをまとめる。 | |
| 第5回 | 集団形成②「学級目標、及び、その他の目標設定」 グループワーク等を通して、具体的な目標設定について整理する。 | 自分なりの教育理念をもとに学級経営の方針についてまとめる。 | |
| 第6回 | 集団形成③「学級のルールづくり」 グループワーク等を通して、具体的な学級のルールについて整理する。 | 学級のルールと集団規律についてまとめる。 | |
| 第7回 | 集団形成④「基本的な学級組織づくり」 グループワーク等を通して、基本的な学級組織について整理する。 | 係活動や朝の会・帰りの会等についてまとめる。 | |
| 第8回 | 集団形成④「教室環境づくり」 グループワーク等を通して、教室環境づくりや掲示物の在り方について整理する。 | 学級の教室環境の具体案を考えまとめる。 | |
| 第9回 | 信頼関係形成①「教師と子どもの人間関係構築」 グループワーク等を通して、子どもとのかかわり方について整理する。 | 教師と子どもの人間関係構築に関する取組をまとめる。 | |
| 第10回 | 信頼関係形成②「子どもと子どもの人間関係構築」 グループエンカウンター的手法について学んだり体験したりして、その手法について整理 | 子どもと子どものよりよい人間関係づくりについて具体的方策をまとめる。 | |
| 第11回 | 教師の基本的姿勢①「子どもと向き合う基本的な構え」 子どもをほめる視点等についてグループワークを行い、カテゴリー化する。 | 子どものよさを見取る視点とその伝達方法についてまとめる。 | |
| 第12回 | 教師の基本的姿勢②「保護者等との連携」 | 懇談会の在り方や保護者との連携方法についてまとめる。 | |
| 第13回 | 学級経営のPDCAサイクル | 計画・実行・省察の流れで、学級経営の全体像をまとめる。 | |
| 第14回 | 始業式時の教師の動き | 始業式の教師の動きについてまとめる。 | |
| 第15回 | 講義の振り返りと学級経営案の説明 | 本講義を振り返り、自分の学級経営案を作成する。 | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | |
| 定期試験 | なし | | |
| レポート | 60％ 学級経営案の作成 1学期始業式の担任の動き | | |
| 小テスト等 | なし | | |
| 成果発表 | 30％ グループワークやディスカッションを通して考えたことを発表する。 | | |
| 受講態度他 | 10％ グループワークやディスカッションには、積極的に参加すること。 | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | <ul style="list-style-type: none"> ・提出物（レポート）の期限は厳守すること。 ・毎時間の学習後に出された課題を簡潔にまとめ、最終的な学級経営案にその考えを反映させること。 ・適宜、グループワークやディスカッション等を行う。それらに、積極的に参加すること。 | | |
| 教科書 | なし | | |
| 指定図書 | なし | | |
| 参考図書 | 小学校学習指導要領解説「特別活動編」「総則編」 文部科学省 | | |
| オフィスアワー | 月曜日2限 | メールアドレス | |

| | | | | |
|--|---|-----------------------|-----------------|----|
| 授業科目 | 教育・保育基礎研究【講義】 | | 開講時期 | 後期 |
| 担当教員 | 平山(静)・今里(順)・山本(尚)・北村(真)・原田(博)・中野(桂) | | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | 本講義では、「自らのキャリア設計を行い、その中で大学で学ぶ意義を発見する方法を学ぶこと」に主眼を置き、特に小学校・幼稚園・保育所での見学実習で学ぶことを目的とする。 事前指導において教育保育現場の実際や実習時の基本的な心構えを学ぶ。 見学実習において子どもの発達や教育・保育の実践方法を間近で観察し、これからの大学での学びと結び付け、自分の将来の基礎を固めていく。 事後指導においては観察結果をまとめ、今後の課題として活かしていく。 | | | |
| 到達目標 | ①自分の希望するキャリアの中で、大学生活の意義を発見することができる ②それぞれの専門科目を学ぶことの意義を説明できる ③同級生との対話の中で、他者の意見を聞き、また自らの意見を理解してもらうことができる ④子どもや児童と積極的にコミュニケーションを取り、発達段階を知り、適切な対応を学ぶ ⑤小学校・幼稚園・保育所の意義を理解し、教諭・保育士の職務内容を知る | | | |
| この授業が目的として DPや関連する 科目など | 初 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 担当教員の中には看護・助産師や中学校理科教員としての実務経験のある者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。 | | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | | |
| 第1回 | オリエンテーション：専門職におけるマナーなど | 見学実習に向けて名札を作成 | | |
| 第2回 | 専門職の理解：幼稚園見学実習について/先輩たちの話（学び方） | 感想レポートを提出 | | |
| 第3回 | 幼稚園について/発達段階について | 発達段階に合わせた子どもの接し方を準備する | | |
| 第4回 | 幼稚園の現場理解 見学実習オリエンテーション、事前学習 | 見学実習の準備 | | |
| 第5回 | 附属幼稚園見学実習① 子どもたちとの関わり | 子どもたちについて気づいたことをまとめる | | |
| 第6回 | 附属幼稚園見学実習② 教諭の配慮を知る | 幼稚園教諭の言葉かけや配慮についてまとめる | | |
| 第7回 | 附属幼稚園見学実習③ 環境構成 | 環境構成についてまとめる | | |
| 第8回 | 附属幼稚園見学実習 グループディスカッションによる事後指導 | ミニレポートを提出 | | |
| 第9回 | 小学校・保育所の現場理解① 現場の話聞く | 感想用紙提出 | | |
| 第10回 | 小学校・保育所の現場理解② 目的と1日の流れ | 学校教育要領と保育所保育指針を読む | | |
| 第11回 | 小学校・保育所の現場理解③ 安全管理 | 現場での安全管理についてまとめる | | |
| 第12回 | 教師や保育士への理解 見学実習での観察方法 | 観察方法をまとめる | | |
| 第13回 | 実習校・園の事前学習、計画書 | 計画書の提出 | | |
| 第14回 | 実習先でのマナー/実習生調書 | 実習生調書の提出 | | |
| 第15回 | 見学実習オリエンテーション | 見学実習の準備 | | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | | |
| 定期試験 | 0% | | | |
| レポート | 60% 感想用紙の提出や内容を点数化します | | | |
| 小テスト等 | 0% | | | |
| 成果発表 | 20% 事後指導におけるグループディスカッションの取り組み | | | |
| 受講態度他 | 20% 普段の受講態度を点数化します | | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | ・理由のない欠席や遅刻は減点の対象となります。欠席や遅刻は事前に連絡すること。 ・提出物の遅れは厳守すること。 ・挨拶やマナーを普段の授業以上に心掛けること。 ・見学実習に向けて体調管理を行うこと。 | | | |
| 教科書 | 「幼稚園教育要領」文部科学省 「小学校学習指導要領 総則編」文部科学省（初等のみ） 「保育所保育指針」厚生労働省（幼保のみ） | | | |
| 指定図書 | 特になし | | | |
| 参考図書 | 特になし | | | |
| オフィスアワー | 各教員の他科目のシラバスを参照 | メールアドレス | 各教員の他科目のシラバスを参照 | |

| | | | |
|-------------------------|--|-----------------------------------|----|
| 授業科目 | 教育課程・方法論【演習】 | 開講時期 | 前期 |
| 担当教員 | 平山 静男 | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | <p>学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を説明することができるようになることを目的とする。あわせて、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を説明することができるようになることを目的とする。</p> <p>授業は、小学校学習指導要領の改訂の経緯及び基本方針、改訂の要点、教育課程の基準、教育課程の編成及び実施から成る。</p> | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1, 学習指導要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的を説明することができる。 2, 学習指導要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を説明することができる。 3, 教育課程が社会において果たしている役割や機能を説明することができる。 4, 教育課程編成の基本原理を説明することができる。 5, 教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示することができる。 6, 単元・学期・学年をまたいだ長期的な視野から、また児童や学校・地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性を説明することができる。 7, 学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を説明することができる。 | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | <p>初 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p><授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は中学校理科教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p> <p>関連する科目は教育課程論、教育経営論、教育方法論です。</p> | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | |
| 第1回 | オリエンテーション。教育課程の実際。 | 復習：実際の教育課程の振り返り | |
| 第2回 | これまでの学習指導要領等改訂経緯と子どもたちの現状 | 復習：これまでの学習指導要領等改訂経緯と子どもたちの現状の振り返り | |
| 第3回 | 2030年の社会と子どもたちの未来 | 復習：2030年の社会と子どもたちの未来の振り返り | |
| 第4回 | 「生きる力」の理念の具体化と教育課程の課題 | 復習：「生きる力」の理念の具体化と教育課程の課題の振り返り | |
| 第5回 | 学習指導要領の枠組みの改善と「社会に開かれた教育課程」 | 復習：社会に開かれた教育課程の振り返り | |
| 第6回 | 何ができるようになるか | 復習：何ができるようになるかの振り返り | |
| 第7回 | 何を学ぶか | 復習：何を学ぶかの振り返り | |
| 第8回 | どのように学ぶか | 復習：どのように学ぶかの振り返り | |
| 第9回 | 子ども一人一人の発達をどのように支援するか | 復習：子ども一人一人の発達をどのように支援するかの振り返り | |
| 第10回 | 何が身に付いたかー学習評価の充実ー | 復習：学習評価の充実の振り返り | |
| 第11回 | 実施するために何が必要か | 復習：実施するために何が必要かの振り返り | |
| 第12回 | 児童の発達支援ー児童の発達を支える指導の充実ー | 復習：児童の発達を支える指導の振り返り | |
| 第13回 | 各学校段階の教育課程の基本的な枠組み | 復習：各学校段階の教育課程の基本的な枠組みの振り返り | |
| 第14回 | 学校段階間の接続 | 復習：学校段階間の接続の振り返り | |
| 第15回 | ディスカッション「私の考えるカリキュラム・マネジメント」 | 復習：授業全般についての振り返り | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | |
| 定期試験 | なし。 | | |
| レポート | 100%。レポートの内容は、学修内容の重要部分についてまとめたもの。 | | |
| 小テスト等 | なし。 | | |
| 成果発表 | なし。 | | |
| 受講態度他 | なし。 | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | 私語は厳禁。 欠席、遅刻は事前もしくは事後に理由を申し出ること。また、途中早退は事前に理由を申し出て、了解を得ること。 | | |
| 教科書 | 文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』東洋館出版社 | | |
| 指定図書 | なし。 | | |
| 参考図書 | 適宜紹介する。 | | |
| オフィスアワー | 月曜日3限目。 | メールアドレス | |

| | | | |
|-------------------------|---|------------------------------------|----|
| 授業科目 | 教育相談【講義】 | 開講時期 | 後期 |
| 担当教員 | 板井 修一 | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | <p>この科目は、初等教職課程授業科目の一つで、教職に関する科目のうち生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目の「教育相談(カウンセリングに関する基礎的知識を含む)」の理論及び方法について学ぶものである。</p> <p>教育現場で子どもたちが現す問題行動への対応は、教師にとっては避けて通ることのできない重要な問題である。的確な「見立て」と適切な対応がとれるかによって、教師の力量が問われることになる。教師には、幼児や児童のこころを理解するための理論や方法を、しっかりと身につけたうえで、子どもたちと真摯に向き合い、関わり合う姿勢が求められている。</p> <p>この「教育相談」の授業をとおして、問題を抱え課題に直面する子どもたちへの指導・援助にとどまらず、問題発生の予防ならびに、子どもたちの人間的成長を促す積極的・開発的な援助や支援のあり方についての理解を深めていく。</p> | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育現場における教育相談の意義について説明することができるようになる。 ・教育相談に役立つカウンセリングの基本的態度や技法を身につける。 ・教育相談の対象となる登園拒否や不登校、発達障害等の問題について、説明できるようになる。 ・幼児理解の理論及び方法の意義について説明できるようになる。 | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | <p>初 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>幼 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p><授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>関連する科目：幼児理解、臨床心理学概論、カウンセリング概論</p> <p>この科目は障がい児福祉・心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p> | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | |
| 第1回 | 教育相談とは 子どもの現状、教育相談の意義、事例の提示とそれに基づくディスカッション | 教育現場が抱える子どもの問題について、新聞や雑誌を調べリストを作る | |
| 第2回 | 発達課題と教育相談 子どもの発達課題と子どもの問題、教育相談の果たす役割 | 子供の発達課題とつまずきについて調べる | |
| 第3回 | 教育相談の三要素 学業相談、進路相談、適応相談 | 教師との自分自身の相談体験について思い出しまとめる | |
| 第4回 | スクールカウンセラー(SC)制度 制度と今後の課題、制度化のプロセス、心の相談員 | 自分の卒業した中学校でSCがどのような活動をしていたかまとめる | |
| 第5回 | 精神分析(1) 無意識の心理学、心的決定論、 | 自分の見た夢や失脚行為について思い出し記録する | |
| 第6回 | 精神分析(2) 自我の働き、防衛機制 | 自分がよくとる防衛機制について、エピソードの形でまとめる | |
| 第7回 | 行動理論 子ども問題に対する理解の仕方(未学習、誤学習、過学習性の問題)、賞と罰、スモールステップ | 日常生活に見られる行為や出来事について、学習理論で説明してみる | |
| 第8回 | カウンセリング(1) ロジャーズの非指示的カウンセリング、クライエント中心療法 | 自分が受けたカウンセリングの体験エピソードをまとめる | |
| 第9回 | カウンセリング(2) 受容・共感・自己一致 小グループでのカウンセリングのロールプレイ(実習) | 自分が他者に対して行ったカウンセリング的行為についてまとめる | |
| 第10回 | 現場で出会う心理的諸問題(1) 不登校を中心に | 適応指導教室やフリースペース等についての情報を収集しリストを作る | |
| 第11回 | 現場で出会う心理的諸問題(2) ④精神遅滞、⑤発達障がい(ADHD・高機能自閉症・アスペルガー症候群等)を中心に | 発達障がいをテーマにしたビデオを観て、障がいについての考えをまとめる | |
| 第12回 | 現場で出会う心理的諸問題(3) いじめ問題を中心に 重大事態についての対処についてディスカッション | 重大事態のいじめ事件について、事件の背景、実態等について調べる | |
| 第13回 | 教師の心のケア 教師の心の健康、ストレスケアマネジメント | 教師の心の健康に関する問題について、新聞や雑誌から調べる | |
| 第14回 | 園や学校での危機への対応 危機の対応と心のケア、PTSDの予防 | PTSDと心のケアについて、新聞や雑誌から調べる | |
| 第15回 | 保護者支援、地域支援 地域のネットワーク、他職種との協働 | 子どもの問題に対する地域コミュニティの取り組みについて調べる | |
| 成績評価 | 割合(%)、種類・評価基準など | | |
| 定期試験 | 0% | | |
| レポート | 100% 期末レポート 講義内容と関連する指定したテーマについて、2000文字程度のレポートを課す | | |
| 小テスト等 | 0% | | |
| 成果発表 | 0% | | |
| 受講態度他 | 授業の進行を妨げるような私語については、厳しく注意する。 | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | <p>毎回の授業で学んだことの振り返りと考えたことを記録する「リフレクション・シート」を、授業の終わりに記入し提出をする。次の講義の初めにチェックした「リフレクション・シート」を返却する。「リフレクション・シート」の提出、返却により、講義への出席と欠席、遅刻の実態を把握する。</p> <p>授業外学修として出された課題は、各自ファイルを作成し整理する。提出を求め、点検をすることがある。</p> | | |
| 教科書 | なし 授業内容と関連した配付資料を毎回配布する | | |
| 指定図書 | なし | | |
| 参考図書 | <p>長友久雄(編著) 『学校カウンセリング入門』 ミネルバ書房</p> <p>向後礼子・山本智子 『教育相談ワークブック 子どもの育ちを支える』 ミネルバ書房</p> | | |
| オフィスアワー | 火曜日の2時間目 | メールアドレス | |

| | | | |
|-------------------------|---|-------------------------------|----|
| 授業科目 | 教職入門【講義】 | 開講時期 | 後期 |
| 担当教員 | 薄 千里 | 単 位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | <p>教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む）に関する知識の修得を通して、教職についての理解を深めること、及び教員の職務の事例や子どもと教育の現状について検討することを通して、自らの教員としての適性や能力、進路について考察する。</p> <p>本講義を通して、教職についての基礎的・基本的な知識を修得していく。ディスカッション等を通して、教員の職務の事例や子どもと教育の現状の検討、目指す教員像に向けて目標設定などを行い、教職についての理解を深め、自らの教員としての適性や能力、進路について考察していく。</p> | | |
| 到達目標 | <p>1 教職の意義、及び教員の役割について理解し、説明することができる。</p> <p>2 教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等）について理解し、説明することができる。</p> <p>3 教員の職務の事例、子どもと教育の現状についてグループ討議等を通して検討し、自らの教員としての適性や能力について考察し記述することができる。</p> <p>4 目指す教員像を具体的に描き、実現のために行動目標を設定し達成していくことができる。</p> | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | <p>初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p><授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は小学校教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p> | | |
| 授業計画 | 授 業 内 容 | 授 業 外 学 修 等 | |
| 第1回 | 学校教育について（教育基本法、学校教育法、学校教育施行規則、小学校学習指導要領、幼稚園教育要領 等） | 法規を基に教育の目的等について確認し、ノートにまとめる。 | |
| 第2回 | 教員観の変遷と求められる教員像について、「心に残っている先生」についてディスカッション | 求められる教員像、自らの教員観を確認する。 | |
| 第3回 | 教育の動向と教育施策について | 教育の動向と教育施策について確認する。 | |
| 第4回 | 教職の意義と教員の役割について、事例を基にディスカッション | 教職の意義、教員の役割についてノートにまとめる。 | |
| 第5回 | 子どもと教育の現状、チームとして組織的に対応する重要性 | 子どもと教育の現状について振り返り、自らの考えをもつ。 | |
| 第6回 | 教員の職務内容 1 研修、服務及び身分保障等 | 教員の職務内容（研修等）についてノートにまとめる。 | |
| 第7回 | 教員の職務内容 2 教育課程の編成と指導計画の作成 | 教育課程と指導計画についてノートにまとめる。 | |
| 第8回 | 教員の職務内容 3 学習指導・保育（学級経営と指導力、授業・保育の成立） | 学級経営、指導力について確認する。 | |
| 第9回 | 教員の職務内容 4 学習指導・保育（魅力ある授業・保育）について、事例を基にディスカッション | 自分が受けてきた学習指導・保育について想起し考察する。 | |
| 第10回 | 教員の職務内容 5 生徒指導・生活指導（意義と課題） | 生徒指導の意義と課題について確認しノートにまとめる。 | |
| 第11回 | 教員の職務内容 6 生徒指導・生活指導の実際、事例を基にディスカッション | 自分が受けてきた生徒指導・生活指導について想起し考察する。 | |
| 第12回 | 学校事故と危機管理 | 学校事故と危機管理について確認し、ノートにまとめる。 | |
| 第13回 | 学校・家庭・地域社会の連携と信頼性の確立 | 学校・家庭・地域社会の連携について確認する。 | |
| 第14回 | 学校教育目標の具現化と学校組織、学校評価 | 学校教育目標の具現化、学校組織、学校評価について確認する。 | |
| 第15回 | 目指す教員像と目標設定（ディスカッション） | 行動目標の達成に向けて努力を継続する。 | |
| 成績評価 | 割 合（％）、種類・評価基準など | | |
| 定期試験 | 50％ | | |
| レポート | 30％ | | |
| 小テスト等 | なし | | |
| 成果発表 | なし | | |
| 受講態度他 | 20％（グループ・全体討議の参加状況を含む。） | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | 将来教職に就くことを前提に、それにふさわしい態度で受講すること。 配布資料をファイルしていくこと。 | | |
| 教科書 | （初等教育コース）文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）』 （幼児保育コース）文部科学省『幼稚園教育要領解説 平成30年3月』 | | |
| 指定図書 | なし | | |
| 参考図書 | （初等教育コース）文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』（平成29年7月） （幼児保育コース）文部科学省『幼稚園教育要領』（平成29年告示） | | |
| オフィスアワー | 木曜日 1 講時 | メールアドレス | |

| | | | |
|-------------------------|---|------------------------------------|----|
| 授業科目 | 初等教科教育法（国語）【演習】 | 開講時期 | 前期 |
| 担当教員 | 稲田 八穂 | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | <p>国語を適切に表現し理解する能力を育成するための内容を、小学校学習指導要領に基づいて整理し、系統的な能力形成について理解し、実践的な力をつけることを目的とする。伝え合う力を高め、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め、国語を尊重する態度を育てるような授業作りについて理解する。</p> <p>○小学校国語科の授業を計画、実践するために、各領域の授業のあり方について理解する。</p> <p>○国語科授業を構成するための理論、指導方法、教材や言語活動についての研究方法を理解し、学習指導案を作成する。</p> <p>○アクティブラーニングを取り入れた模擬授業を行う。</p> | | |
| 到達目標 | <p>○学習者である児童理解に基づき、教材研究を行うことができる。</p> <p>○国語科の目標や児童理解の上で、単元の指導計画案を作成する能力をつける。</p> <p>○国語科指導に関わる指導内容を理解して、アクティブラーニングを取り入れた学習指導案を作成することができる。</p> <p>○国語科指導に関わる指導方法を理解して、学習指導案を作成し模擬授業をすることができる。</p> <p>○国語科指導における評価の方法を理解して、評価表を作成したり、模擬授業の中に評価活動を取り入れたりすることができる。</p> | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | <p>初(4)①-④これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>新学習指導要領を基に教材研究の仕方や単元計画作りを学び、少人数グループで学習指導案を作成して模擬授業を行う。</p> <p>この学習は1年次履修科目「初等国語科概論」で学んだ力を生かし、実践的な力を育成する。</p> <p><授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>小学校教員の実務経験あり。</p> | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | |
| 第1回 | オリエンテーション、国語科の目標と授業、国語科教育の構造 新学習指導要領と現学習指導要領の目標や内容を読み比べ、これからの国語科授業について | 予習：新学習指導要領を読む 復習：目標と指導事項をまとめる | |
| 第2回 | 国語科授業の計画 学力を考慮した国語科授業の計画・学習形態・情報機器の活用はいかにあるべきかを学ぶ。 | 予習：授業作りについてマッピング | |
| 第3回 | 教材研究と教材開発（知識及び技能） 伝統的な言語文化や書写に浮いて学ぶことの意義を明らかにし、指導のあり方や工夫などに | 予習：配付資料の教材研究 | |
| 第4回 | 教材研究と教材開発（話すこと・聞くこと） 話すこと・聞くことについて学ぶことの意義を明らかにし、指導のあり方や工夫などについて | 予習：単元計画の作成 復習：授業作りをまとめる | |
| 第5回 | 教材研究と教材開発（書くこと） 書くことについて学ぶことの意義を明らかにし、指導のあり方や工夫などについて考える。 | 予習：配付資料の教材研究 | |
| 第6回 | 教材研究と教材開発（文学的文章） 文学を読むことの意義を明らかにし、指導のあり方や工夫などについて考える。 | 予習：単元計画の作成 復習：授業作りをまとめる | |
| 第7回 | 教材研究と教材開発（説明的文章） 説明的文章を読むことの意義を明らかにし、指導のあり方や工夫などについて考える。 | 予習：配布資料で授業作り | |
| 第8回 | 模擬授業の学習指導案作り 自分の選んだジャンルの教材研究、教材開発、指導案作成をグループで行う。 | 予習：模擬授業の教材研究 | |
| 第9回 | 模擬授業と振り返り（演習と評価） 第1回 「伝統的な言語文化」グループ | 予習：授業準備、配布指導案を読む | |
| 第10回 | 模擬授業と振り返り（演習と評価） 第2回 「書写」グループ | 予習：授業準備、配布指導案を読む | |
| 第11回 | 模擬授業と振り返り（演習と評価） 第3回 「話すこと・聞くこと」グループ | 予習：授業準備、配布指導案を読む | |
| 第12回 | 模擬授業と振り返り（演習と評価） 第4回 「書くこと」グループ | 予習：授業準備、配布指導案を読む | |
| 第13回 | 模擬授業と振り返り（演習と評価） 第5回 「読むこと（文学的文章）」グループ | 予習：授業準備、配布指導案を読む | |
| 第14回 | 模擬授業と振り返り（演習と評価） 第6回 「読むこと（説明的文章）」グループ | 予習：授業準備、配布指導案を読む | |
| 第15回 | 模擬授業の振り返り、授業のまとめ 自分たちの模擬授業をビデオで振り返り、目標と評価の関連についてまとめる。 | 予習：模擬授業のVTRを視聴 復習：評価のあり方、学習のまとめ | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | |
| 定期試験 | なし | | |
| レポート | 50％ 教材研究、模擬授業の学習指導案作成 | | |
| 小テスト等 | なし | | |
| 成果発表 | 30％ 模擬授業 | | |
| 受講態度他 | 20％ 質問、意見発表など積極的な授業参加、グループ活動の様子、ノート評価 | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | <p>本講義のノートを作成してください。</p> <p>予習、復習はノートにまとめてください。</p> <p>模擬授業の学習指導案は、前の週に配布してください。他のグループはそれを読んで模擬授業に参加してください。</p> | | |
| 教科書 | 『新たな時代の学びを創る 小学校国語科教育研究』全国大学国語教育学会編／東洋館出版社／2019年 | | |
| 指定図書 | 授業で紹介 | | |
| 参考図書 | アクティブラーニングの授業展開（山元隆春編、東洋館出版） | | |
| オフィスアワー | 火曜日午後、水曜日午前 | メールアドレス | |

| | | | | |
|-------------------------|--|--------------------------------|------|----|
| 授業科目 | 初等教科教育法（算数）【演習】 | | 開講時期 | 後期 |
| 担当教員 | 石原 努 | | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | <p>小学校学習指導要領解説「算数編」をもとに、「児童が、数量や図形の基礎的・基本的な知識及び技能の内容を理解するとともに、日常的な事象を数理的に処理する力を楽しく身に付けそれを表現する」という算数科の授業の在り方について理解を深めることを目的とする。</p> <p>また、実際に、算数科の学習目標や内容・指導方法・評価項目等を吟味した学習指導案を作成し、模擬授業を実施することを通して、授業実践力を高めることを目的とする。</p> | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 算数科の目標を踏まえ、単元の指導計画を作成することができる。 算数科の内容を踏まえ、学習指導案を作成することができる。 算数科の指導方法を踏まえ、模擬授業をすることができる。 模擬授業を通して、算数科の具体的な評価方法や子どもとの関わり方等を工夫することができる。 | | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | <p>初(3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p><授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は小学校教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p> | | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | | |
| 第1回 | 本講義の概要説明と学習指導要領における算数科教育の目標・内容 | 講義内容の復習と、学習指導要領解説の目標部分の熟読 | | |
| 第2回 | 数学的活動・問題解決型授業展開・ICT活用等について | 数学的活動・問題解決型授業・ICT活用等についてまとめる。 | | |
| 第3回 | 算数科の学習指導案の書き方①（単元観・児童観・指導観） 指導をする際の留意点 教材の解釈の仕方 子どものつまづき等 | 参考資料（指導案）を熟読し、指導案の書き方の流れを理解する。 | | |
| 第4回 | 算数科の学習指導案の書き方②（評価規準・学習計画・展開） 前学年とのつながり 各領域のつながり 授業展開等 | 参考資料（指導案）を熟読し、指導案の書き方の流れを理解する。 | | |
| 第5回 | 模擬授業に向けた事前準備① グループワーク等を通して、模擬授業に向けた事前準備を行う。 | 指導案の作成、教材の作成を行う。 | | |
| 第6回 | 模擬授業に向けた事前準備② グループワーク等を通して児童の反応を予想し、最終的な授業構想を行う。 | 学習展開等を指導案の形式にまとめ、授業の練習をする。 | | |
| 第7回 | 数と計算領域（1～3年）の模擬授業と授業に関するディスカッション | 模擬授業の考察、及び、授業記録の作成 | | |
| 第8回 | 数と計算領域（4～6年）の模擬授業と授業に関するディスカッション | 模擬授業の考察、及び、授業記録の作成 | | |
| 第9回 | 図形領域（1～3年）の模擬授業と授業に関するディスカッション | 模擬授業の考察、及び、授業記録の作成 | | |
| 第10回 | 図形領域（4～6年）の模擬授業と授業に関するディスカッション | 模擬授業の考察、及び、授業記録の作成 | | |
| 第11回 | 測定領域の模擬授業と授業に関するディスカッション | 模擬授業の考察、及び、授業記録の作成 | | |
| 第12回 | 変化と関係領域の模擬授業と授業に関するディスカッション | 模擬授業の考察、及び、授業記録の作成 | | |
| 第13回 | データの活用領域の模擬授業と授業に関するディスカッション | 模擬授業の考察、及び、授業記録の作成 | | |
| 第14回 | データの活用領域の模擬授業と授業に関するディスカッション | 学習構想に関する考察・まとめ | | |
| 第15回 | 算数科教育・授業作りのまとめ 授業づくりについてのポイントをディスカッション等を通して整理する。 | 指導案の作成・提出準備 | | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | | |
| 定期試験 | なし | | | |
| レポート | 40% 学習指導案、レポート等の提出 | | | |
| 小テスト等 | なし | | | |
| 成果発表 | 40% 模擬授業等の内容 | | | |
| 受講態度他 | 20% 指導案検討や模擬授業へ向けた取組の参加態度等 | | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | <ul style="list-style-type: none"> 教材研究・指導案作成・模擬授業準備等、グループで協同して作業を進める。 指示された内容以外においても、必要に応じて事前準備を行うこと。 | | | |
| 教科書 | 小学校指導要領解説 算数編（平成29年6月 文部科学省） | | | |
| 指定図書 | 特に指定しない。 | | | |
| 参考図書 | 授業の際に指示する。 | | | |
| オフィスアワー | 月曜日2限、水曜日2限 | メールアドレス | | |

| | | | | |
|-------------------------|---|-----------------------------|------|----|
| 授業科目 | 初等教科教育法（社会）【演習】 | | 開講時期 | 後期 |
| 担当教員 | 松本 和寿 | | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | 『小学校学習指導要領解説（社会編）』に基づき、指導目標や内容、指導方法などを吟味した学習指導案を作成し、模擬授業をすることを通じて、社会科指導の基礎的実践力を身に付ける。 目的が達成できるよう、実践事例の紹介や解説に学んだ上で、グループごとに学習指導案を作成し模擬授業を行う。なお、この授業は1年次「初等社会科概論」の学習内容を基礎として行う。 模擬授業後は、学習指導要領に照らした内容の適切性や児童の意識の流れに即した発問や資料かななどを視点に毎回班別討議と全体討議を行う。その内容を踏まえて担当教員が助言を行う。（授業内容の下段は助言の視点） | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・社会科の目標を理解して単元の指導計画を作成することができる。 ・社会科の内容を理解して学習指導案を作成することができる。 ・社会科の指導方法を理解して学習指導案を作成し模擬授業をすることができる。 | | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | <p>初（3）-②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。</p> <p><授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は小学校教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。この科目は1年次の「初等社会科概論」に関連します。</p> | | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | | |
| 第1回 | オリエンテーション・学習指導要領における小学校社会科の目標と内容 | 1年次科目「初等社会科概論」を復習しておく。 | | |
| 第2回 | 学習指導要領における小学校社会科の学年の目標と内容 | 『小学校学習指導要領解説社会編』第2章を熟読しておく。 | | |
| 第3回 | 社会科の単元構成と問題解決的学習、授業の構成と発展的学習 | 『小学校学習指導要領解説社会編』第3章を熟読しておく。 | | |
| 第4回 | 模擬授業の準備（子どもの認識や思考の流れと情報機器・資料とのかかわり） | 教材研究、指導案作成、資料作成をしておく。 | | |
| 第5回 | 模擬授業の準備（学習指導案における指導上の留意点と評価を踏まえた個へのかかわり方） | 教材研究、指導案作成、資料作成をしておく。（継続） | | |
| 第6回 | 模擬授業の準備（教材研究の視点、学習指導案の構成と記述の留意点） | 教材研究、指導案作成、資料作成（模擬授業指導案提出） | | |
| 第7回 | 模擬授業①と振り返り【模擬授業及び討議】（1. 授業者のコメント 2. 班別討議 3. 全体討議 4. 担当教員の助言）・指導要領との内容の整合性・資料の妥当性 | 模擬授業参加の視点についてまとめておく。 | | |
| 第8回 | 模擬授業②と振り返り【模擬授業及び討議】（1. 授業者のコメント 2. 班別討議 3. 全体討議 4. 担当教員の助言）・発問・机間指導 | 模擬授業を参観し気づいたことをまとめておく。 | | |
| 第9回 | 模擬授業③と振り返り【模擬授業及び討議】（1. 授業者のコメント 2. 班別討議 3. 全体討議 4. 担当教員の助言）・板書・話し合いの設定 | 模擬授業（参観）の振り返り | | |
| 第10回 | 模擬授業④と振り返り【模擬授業及び討議】（1. 授業者のコメント 2. 班別討議 3. 全体討議 4. 担当教員の助言）・児童の意識の流れに即した資料提示・児童の発言への対応 | 模擬授業を参観し気づいたことをまとめておく。 | | |
| 第11回 | 模擬授業⑤と振り返り【模擬授業及び討議】（1. 授業者のコメント 2. 班別討議 3. 全体討議 4. 担当教員の助言）・視聴覚機器の活用 | 模擬授業を参観し気づいたことをまとめておく。（継続） | | |
| 第12回 | 模擬授業⑥と振り返り【模擬授業及び討議】（1. 授業者のコメント 2. 班別討議 3. 全体討議 4. 担当教員の助言） | 個人指導案作成（最終提出用） | | |
| 第13回 | 模擬授業⑦と振り返り【模擬授業及び討議】（1. 授業者のコメント 2. 班別討議 3. 全体討議 4. 担当教員の助言）1単元1サイクルの授業展開 | 個人指導案作成（最終提出用）（継続） | | |
| 第14回 | 模擬授業⑧と振り返り【模擬授業及び討議】（1. 授業者のコメント 2. 班別討議 3. 全体討議 4. 担当教員の助言）・形成的評価の方法 | 個人指導案作成（最終提出用）（継続） | | |
| 第15回 | 模擬授業⑨と振り返り【模擬授業及び討議】（模擬授業全体の総括 個人指導案提出） | 個人指導案（最終提出用）を完成させておく。 | | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | | |
| 定期試験 | なし | | | |
| レポート | 50％（個人で記述した指導案の内容） | | | |
| 小テスト等 | なし | | | |
| 成果発表 | 30％（模擬授業の内容） | | | |
| 受講態度他 | 20％（討論への参加） | | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | 正当な理由なく欠席しないこと。 | | | |
| 教科書 | 正当な理由なく欠席しないこと。 | | | |
| 指定図書 | なし | | | |
| 参考図書 | 授業の際に指示する。 | | | |
| オフィスアワー | 月曜日、金曜日の昼休み | メールアドレス | | |

| | | | | |
|-------------------------|---|-------------------------------|------|----|
| 授業科目 | 初等教科教育法（理科）【演習】 | | 開講時期 | 前期 |
| 担当教員 | 平山 静男 | | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | 様々な学習指導理論を踏まえて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができるようになることを目的とする。あわせて、学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができるようになることを目的とする。授業は、学習指導要領解説の振り返り、授業設計の考え方と学習指導案の構成・作成、教材研究、模擬授業と授業研究から成る。 | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1, 子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を説明することができる。 2, 理科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を説明できるとともに、授業設計に活用することができる。 3, 学習指導案の構成を把握し、具体的な授業設計と学習指導案を作成することができる。 4, 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を説明することができる。 | | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | <p>初 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p><授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は中学校理科教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p> <p>関連する科目は初等理科概論、初等生活科概論です。</p> | | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | | |
| 第1回 | オリエンテーション。グループ編成、模擬授業単元の検討 | グループワーク：教材研究、模擬授業の準備、学習指導案の作成 | | |
| 第2回 | 教科書の読み取り、単元展開 | グループワーク：教材研究、模擬授業の準備、学習指導案の作成 | | |
| 第3回 | 教科書指導書の読み取り、評価の方法、学習指導案の作成 | グループワーク：教材研究、模擬授業の準備、学習指導案の作成 | | |
| 第4回 | 評価の方法 | グループワーク：教材研究、模擬授業の準備、学習指導案の作成 | | |
| 第5回 | 学習指導案の作成 | グループワーク：教材研究、模擬授業の準備、学習指導案の作成 | | |
| 第6回 | 模擬授業の検討 | グループワーク：教材研究と模擬授業準備、学習指導案の作成 | | |
| 第7回 | 第3学年A領域の模擬授業とディスカッション | グループワーク：教材研究と模擬授業準備、学習指導案の作成 | | |
| 第8回 | 第3学年B領域の模擬授業とディスカッション | グループワーク：教材研究と模擬授業準備、学習指導案の作成 | | |
| 第9回 | 第4学年A領域の模擬授業とディスカッション | グループワーク：教材研究と模擬授業準備、学習指導案の作成 | | |
| 第10回 | 第4学年B領域の模擬授業とディスカッション | グループワーク：教材研究と模擬授業準備、学習指導案の作成 | | |
| 第11回 | 第5学年A領域の模擬授業とディスカッション | グループワーク：教材研究と模擬授業準備、学習指導案の作成 | | |
| 第12回 | 第5学年B領域の模擬授業とディスカッション | グループワーク：教材研究、模擬授業準備、学習指導案の作成 | | |
| 第13回 | 第6学年A領域の模擬授業とディスカッション | グループワーク：教材研究、模擬授業準備、学習指導案の作成 | | |
| 第14回 | 第6学年B領域の模擬授業とディスカッション | 復習：模擬授業の改善 | | |
| 第15回 | 授業改善の視点、授業のまとめ | 復習：授業改善の視点についての振り返り | | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | | |
| 定期試験 | なし。 | | | |
| レポート | 100%。レポートの内容は、その都度指示する。 | | | |
| 小テスト等 | なし。 | | | |
| 成果発表 | なし。 | | | |
| 受講態度他 | なし。 | | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | 私語は厳禁。 欠席、遅刻は事前もしくは事後に理由を申し出ること。また、途中早退は事前に理由を申し出て、了解を得ること。 | | | |
| 教科書 | 「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 理科編」 文部科学省 東洋館出版社 | | | |
| 指定図書 | なし。 | | | |
| 参考図書 | 適宜紹介する。 | | | |
| オフィスアワー | 月曜日3限目。 | メールアドレス | | |

| | | | | |
|-------------------------|---|-------------------------------------|------|----|
| 授業科目 | 初等国語科概論【講義】 | | 開講時期 | 前期 |
| 担当教員 | 稲田 八穂 | | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | <p>幼児期における言葉についての感覚や表現力、小学校国語科教育における目標、内容について理解する。「幼稚園教育要領」および「小学校学習指導要領 国語編」に基づき、教科内容を系統的に理解し、説明できるようになることを目的とする。さらに、自分たちの分担課題について主体的に調べ、グループで協働的に発表することを通して、初等国語科の教育内容にかかわる知識のさらなる習得、教員としての能力を身に付けることを目指す。</p> | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 幼児期から児童期の言葉の発達を理解し、言葉に対する感覚や表現について概要を説明することができる。 ○ 小学校国語科の内容について基礎的な知識を身に付け、系統的な指導法の必要性を説明することができる。 ○ 日本文学史の概要および代表的な作品について説明することができる。 ○ 毛筆と硬筆による「書写」指導の内容について理解し、自身の書写の基礎的技能を高めることができる。 ○ 言語を用いた種々の表現活動をグループで協働的に創造し、発表することができる。 | | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | <p>初 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p><授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は小学校教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p> | | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | | |
| 第1回 | オリエンテーション、人間と言葉 | 復習：言葉の機能や働きについてまとめる。 | | |
| 第2回 | 言葉と生活（方言、外来語、流行語） 選んだ言葉で詩を書き換える（グループ活動） | 予習：配付資料を読む 復習：生活と言葉についてまとめる | | |
| 第3回 | 国語辞典と漢和辞典 | 復習：時代と言葉について考えをまとめる | | |
| 第4回 | 言語活動①（絵本の読み聞かせをグループ内で行う） | 予習：読み聞かせの思い出を書く 復習：思い出の絵本を再読する | | |
| 第5回 | 言語活動②（音読・朗読をグループで発表する） | 予習：課題の音読練習をする。 復習：音読、朗読についてまとめる。 | | |
| 第6回 | 言語活動③（詩、短歌、俳句）グループ活動で句会をする | 予習：詩、短歌、俳句を創作する 復習：それぞれの良さをまとめる。 | | |
| 第7回 | 日本の文学①（上代～中世） グループでブックトークをする。 | 予習：提示された時代の文学作品を探す | | |
| 第8回 | 日本の文学②（近世～現代） ブックトークをする。 | 予習：提示された時代の文学作品を探す | | |
| 第9回 | 「話すこと・聞くこと」の指導について | 予習：「小学校学習指導要領解説国語編」を読む。 | | |
| 第10回 | 「書くこと」の指導について | 予習：「小学校学習指導要領解説国語編」を読む | | |
| 第11回 | 「読むこと」の指導について | 予習：「小学校学習指導要領解説国語編」を読む | | |
| 第12回 | 「伝統的な国語文化と国語の特質に関する事項」の指導について | 予習：「小学校学習指導要領解説国語編」を読む | | |
| 第13回 | 書体の種類：書写①（毛筆による楷書） | 予習：「小学校学習指導要領解説国語編」を読む | | |
| 第14回 | 書体の種類：書写②（硬筆） | 予習：「小学校学習指導要領解説国語編」を読む | | |
| 第15回 | 言語活動における交流活動についてグループ討議をする。 学修のまとめ | 復習：交流活動の意義について授業個人評価 | | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | | |
| 定期試験 | 50％ | | | |
| レポート | 20％ 課題中に出されたミニレポート | | | |
| 小テスト等 | - | | | |
| 成果発表 | 20％ グループ発表する。 | | | |
| 受講態度他 | 10％ 質問、意見発表など積極的な授業参加を求める。 | | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | <p>毎回、読み聞かせと講義内容についての予習発表を実施します。（全員で順番に実施） 自分の分担の時には絵本を選んで、読み聞かせの練習をしておいてください。 第4回は国語辞典と漢和辞典を用意してください。</p> | | | |
| 教科書 | 小学校学習指導要領解説（国語編）（初等コースのみ） 幼稚園教育要領（幼保コースのみ） | | | |
| 指定図書 | なし | | | |
| 参考図書 | 授業の際に適時指示します。 | | | |
| オフィスアワー | 火曜日、木曜日午後 | メールアドレス | | |

| | | | | |
|-------------------------|--|------------------------------------|------|----|
| 授業科目 | 初等算数教科概論【講義】 | | 開講時期 | 前期 |
| 担当教員 | 石原 努 | | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | 幼稚園教育要領、及び、小学校学習指導要領解説「算数編」の目標・内容（A数と計算、B図形、C測定、変化と関係、Dデータの活用）・数学的活動等を踏まえ、幼児期から児童期における、数量や図形に対する関心や数学的なものの見方や考え方等の特徴を理解することを目的とする。 また、各学年における内容（A～Dの4領域）の系統性や数学的活動の意義を理解し、それに関する基礎的な理論や知識を習得することを目的とする。 | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期から児童期における数に対する関心や数学的なものの見方・考え方等の特徴について説明することができる。 ・4領域（A数と計算、B図形、C測定・変化と関係、Dデータの活用）の内容、及び、系統性に関する基礎的な理論を説明することができる。 ・各領域における数学的活動について列挙することができる。 ・算数科に関する基本的な概念や用語等を踏まえ、的確に用いることができる。 | | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | 初 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 この科目は小学校教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。 | | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | | |
| 1 | 本講義の概要、及び、幼児期における数量や図形に対する関心 | 講義内容を復習し、幼児期の数に対する関心・見方等の特徴をまとめる。 | | |
| 2 | 小学校算数科の目標・内容・数学的活動 | 講義内容を復習し、学習指導要領解説算数編（P14～17）を熟読する。 | | |
| 3 | A数と計算①（整数・小数・分数の概念・表記） | 講義内容を復習し、学習指導要領解説算数編（数と計算領域）を熟読する。 | | |
| 4 | A数と計算②（整数とその計算） | 講義内容を復習し、学習指導要領解説算数編（数と計算領域）を熟読する。 | | |
| 5 | A数と計算③（小数と分数とその計算） | 講義内容を復習し、学習指導要領解説算数編（数と計算領域）を熟読する。 | | |
| 6 | A数と計算④（見積もり・概算） | 第3～6回の講義内容を復習し、数と計算領域の系統性をまとめる。 | | |
| 7 | B図形①（図形の概念形成・作図） | 講義内容を復習し、学習指導要領解説算数編（B領域）を熟読する。 | | |
| 8 | B図形②（面積・体積） | 講義内容を復習し、学習指導要領解説算数編（B領域）を熟読する。 | | |
| 9 | B図形③（拡大・縮図・対称・単位変換） | 第7～9回の講義内容を復習し、B領域の系統性をまとめる。 | | |
| 10 | C測定（長さやかさ等） | 講義内容を復習し、学習指導要領解説算数編（C領域）を熟読する。 | | |
| 11 | C変化と関係①（折れ線グラフ等） | 講義内容を復習し、学習指導要領解説算数編（C領域）を熟読する。 | | |
| 12 | C変化と関係②（伴って変わる2量の関係・比例・比等） | 第10～12回の講義内容を復習し、C領域の系統性をまとめる。 | | |
| 13 | Dデータの活用①（データの分類整理等） | 講義内容を復習し、学習指導要領解説算数編（D領域）を熟読する。 | | |
| 14 | Dデータの活用②（統計・平均等） | 第13～14回の講義内容を復習し、数量関係領域の系統性をまとめる。 | | |
| 15 | 算数科概論のまとめ | 第1回講義内容～第14回講義内容についてまとめる。 | | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | | |
| 定期試験 | 70% 定期試験期間中に60分間のテストを行う。内容の詳細は、授業内に指示する。 | | | |
| レポート | 20% 各領域（A～D）の系統性をまとめ、4回提出する。詳細は、授業内で指示する。 | | | |
| 小テスト等 | なし | | | |
| 成果発表 | なし | | | |
| 受講態度他 | 10% 授業への真摯な取り組みや積極的な授業参加を考慮する。 | | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | <ul style="list-style-type: none"> ・気持ちのよい履修態度で臨むこと。 ・指示された内容がある場合は、必ず、予習・復習をすること。 | | | |
| 教科書 | 文部科学省 『小学校指導要領解説（算数編）』 東洋館出版社 | | | |
| 指定図書 | 特に指定しない。 | | | |
| 参考図書 | 授業の際に指示する。 | | | |
| オフィスアワー | 月曜日2限、水曜日2限 | メールアドレス | | |

| | | | | |
|-------------------------|---|-----------------------------------|------|----|
| 授業科目 | 初等社会科概論【講義】 | | 開講時期 | 前期 |
| 担当教員 | 松本 和寿 | | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | <p>小学校社会科について、その性格と歴史、学習指導要領に基づく目標と内容の取り扱いを理解するとともに、小学校社会科の内容について基礎的な理論および知識を習得することを目的とする。</p> <p>『小学校学習指導要領解説社会編』に基づき社会科の目標や内容、指導計画作成上の留意点などに関する講義を行う。</p> | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・小学校社会科の成立過程、変遷、目標、内容について述べることができる。 ・小学校社会科の学習内容について基礎的な理論および知識について説明することができる。 ・社会を取り巻く諸問題について国土および国際的視点から興味・関心を持ち、述べることができる。 | | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | <p>初(3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p><授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は小学校教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。この科目は1年次の「初等教科教育法(社会)」に関連します。</p> | | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | | |
| 第1回 | 教育課程編成の必要性(教育基本法、学校教育法等を踏まえて)【討論】 | 小学生のときに受けた社会科授業を早期し説明する準備をする。 | | |
| 第2回 | 社会科の目標と学年の目標 | 『小学校学習指導要領解説社会編』第1章を熟読しておく。 | | |
| 第3回 | 3・4年生の目標と内容①(身近な地域、地域の生産や販売等) | 『小学校学習指導要領解説社会編』第2章(3・4年)を熟読しておく。 | | |
| 第4回 | 3・4年生の目標と内容②(地域の安全を守る諸活動、地域の発展に尽くした人々等) | 『小学校学習指導要領解説社会編』第2章(3・4年)を熟読しておく。 | | |
| 第5回 | 5年生の目標と内容①(我が国の国土の様子と国民生活との関連) | 『小学校学習指導要領解説社会編』第2章(5年)を熟読しておく。 | | |
| 第6回 | 5年生の目標と内容②(我が国の農業や水産業の様子と国民生活との関連) | 『小学校学習指導要領解説社会編』第2章(5年)を熟読しておく。 | | |
| 第7回 | 5年生の目標と内容③(我が国の工業の様子と国民生活との関連) | 『小学校学習指導要領解説社会編』第2章(5年)を熟読しておく。 | | |
| 第8回 | 5年生の目標と内容④(我が国情報産業などの様子と国民生活との関連) | 『小学校学習指導要領解説社会編』第2章(5年)を熟読しておく。 | | |
| 第9回 | 6年生の目標と内容①(我が国の歴史上の主な事象①縄文～奈良・平安) | 『小学校学習指導要領解説社会編』第2章(6年)を熟読しておく。 | | |
| 第10回 | 6年生の目標と内容②(我が国の歴史上の主な事象②鎌倉・室町・江戸) | 『小学校学習指導要領解説社会編』第2章(6年)を熟読しておく。 | | |
| 第11回 | 6年生の目標と内容③(我が国の歴史上の主な事象③明治・大正・昭和) | 『小学校学習指導要領解説社会編』第2章(6年)を熟読しておく。 | | |
| 第12回 | 6年生の目標と内容④(我が国の政治の働き、日本国憲法の考え方) | 『小学校学習指導要領解説社会編』第2章(6年)を熟読しておく。 | | |
| 第13回 | 6年生の目標と内容⑤(我が国とつながりの深い国の人々の生活、国際社会における我が国の役割) | 『小学校学習指導要領解説社会編』第2章(3・4年)を熟読しておく。 | | |
| 第14回 | 社会科で身に付ける学力とは(評価の観点) | 『小学校学習指導要領解説社会編』第1章と第3章を熟読しておく。 | | |
| 第15回 | まとめ(社会科の指導計画作成上の留意点)【討論】 | 社会科指導で大切なことについて考え発表準備をしておく。 | | |
| 成績評価 | 割合(%)、種類・評価基準など | | | |
| 定期試験 | 80% | | | |
| レポート | なし。 | | | |
| 小テスト等 | なし。 | | | |
| 成果発表 | なし。 | | | |
| 受講態度他 | 20% | | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | 正当な理由なく欠席しないこと。 | | | |
| 教科書 | 文部科学省『小学校学習指導要領解説(社会編)』東洋館出版社 | | | |
| 指定図書 | 指定しない。 | | | |
| 参考図書 | 授業の際に指示する。 | | | |
| オフィスアワー | 月曜日、金曜日の昼休み | メールアドレス | | |

| | | | | |
|-------------------------|--|----------------------------------|------|----|
| 授業科目 | 初等理科概論【講義】 | | 開講時期 | 後期 |
| 担当教員 | 平山 静男 | | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | 理科における教育目標、育成を目指す資質・能力を説明することができようになることを目的とする。あわせて、学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて説明することができるようになることを目的とする。 授業は、理科の改訂の経緯及び基本方針、理科改訂の趣旨及び要点、理科の目標及び内容、各学年の目標及び内容、指導計画の作成と内容の取り扱いから成る。 | | | |
| 到達目標 | 1, 学習指導要領における理科の目標及び主な内容並びに全体構造を説明することができる。 2, 個別の学習内容について指導上の留意点を説明することができる。 3, 理科の学習評価の考え方を説明することができる。 4, 理科と背景となる学問領域との関係を説明することができ、教材研究に活用することができる。 | | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | 初 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 ＜授業外学修＞1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 この科目は中学校理科教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。 関連する科目は初等教科教育法（理科）です。 | | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | | |
| 第1回 | オリエンテーション。改訂の経緯及び基本方針 | 復習：基本方針を中心とした振り返り | | |
| 第2回 | 理科改訂の趣旨、理科改訂の要点 | 復習：改訂の要点を中心とした振り返り | | |
| 第3回 | 教科の目標 | 復習：理科の目標についての振り返り | | |
| 第4回 | 理科の内容構成、学年目標と学年内容の構成の考え方 | 復習：理科の内容構成、学年目標と学年内容の構成の考え方の振り返り | | |
| 第5回 | 第3学年の目標 | 復習：第3学年の目標についての振り返り | | |
| 第6回 | 第3学年の内容 | 復習：第3学年の内容についての振り返り | | |
| 第7回 | 第4学年の目標 | 復習：第4学年の目標についての振り返り | | |
| 第8回 | 第4学年の内容 | 復習：第4学年の内容についての振り返り | | |
| 第9回 | 第5学年の目標 | 復習：第5学年の目標についての振り返り | | |
| 第10回 | 第5学年の内容 | 復習：第5学年の内容についての振り返り | | |
| 第11回 | 第6学年の目標 | 復習：第6学年の目標についての振り返り | | |
| 第12回 | 第6学年の内容 | 復習：第6学年の内容についての振り返り | | |
| 第13回 | 指導計画作成上の配慮事項 | 復習：指導計画作成上の配慮事項についての振り返り | | |
| 第14回 | 内容の取扱いについての配慮事項 | 内容の取扱いについての配慮事項についての振り返り | | |
| 第15回 | 事故防止、薬品などの管理、授業のまとめ | 復習：事故防止、薬品などの管理についての振り返り | | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | | |
| 定期試験 | 80%。試験の内容は、初等理科の重要ポイントの理解について尋ねる。 | | | |
| レポート | なし。 | | | |
| 小テスト等 | なし。 | | | |
| 成果発表 | なし。 | | | |
| 受講態度他 | 20%。授業に臨む意欲や受講態度について、主として意見発表や質問などにより評価する。 | | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | 私語は厳禁。 欠席、遅刻は事前もしくは事後に理由を申し出ること。また、途中早退は事前に理由を申し出て、了解を得ること。 | | | |
| 教科書 | 文部科学省『小学校学習指導要領解説 理科編』東洋館出版社 | | | |
| 指定図書 | なし。 | | | |
| 参考図書 | 適宜紹介する。 | | | |
| オフィスアワー | 月曜日3限目。 | メールアドレス | | |

| | | | |
|-------------------------|--|-----------------------------------|----|
| 授業科目 | 女性心理学【講義】 | 開講時期 | 前期 |
| 担当教員 | 洪田 登美子 | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | <p>人生80余年という長寿命化と少子化が急速に進む現代において、女性の性役割観や価値観が変容し、女性の生き方は多様化しています。女性が生き方を選択できるようになったということができますが、どのようなライフコースを選んでも、女性は男性以上に何度も人生の岐路に立たされ、選択を迫られることとなります。</p> <p>この授業は、現代女性の生き方に影響を与えている生物学的要因、文化・社会的要因、心理的要因について考察します。その中で自分自身に向き合い、現代社会に生きる女性として自分らしい将来設計をすることを目的とします。</p> | | |
| 到達目標 | <p>1. 女性の生き方や女性特有の心理臨床の問題に影響を与えている文化・社会的要因、心理的要因、生物学的要因について説明することができる。</p> <p>2. 女性の多様なライフコースとそれぞれのコースに想定される心理的な危機について具体的に述べるができる。</p> <p>3. ワーク・ライフ・バランスについて自分の考えを述べるができる。</p> | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | <p>心 (1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。「市民としての社会的責任・勤労観」</p> <p>心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。</p> <p>福 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>初 (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。</p> <p>幼 (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。</p> <p><授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | |
| 第1回 | オリエンテーション：女性の発達とライフサイクル | 女性やジェンダーに関する新聞記事等を調べる | |
| 第2回 | 女性らしくとは | 女性やジェンダーに関する新聞記事等を調べる | |
| 第3回 | 思春期における心理臨床：女性と食行動 | 女性やジェンダーに関する新聞記事等を調べる | |
| 第4回 | 女性のライフコースとキャリア発達 | 厚生労働省HP「女子大学生就活ガイド」を調べる | |
| 第5回 | 女性のキャリア発達とその関連要因 | 自分の経験をもとに考察するレポートを作成する | |
| 第6回 | 現代の結婚事情 | レポートを作成する | |
| 第7回 | 親となるプロセス①：妊娠・出産に関わる意思決定 | 身近な女性から妊娠・出産にまつわる話を聞く | |
| 第8回 | 親となるプロセス②：現代の子育て事情 | 子育て支援の地域資源について調べる | |
| 第9回 | ライフコースの調整とケア役割 | どのような働き方をしたいか自分の考えをまとめる | |
| 第10回 | ケア・テイカーとしての女性 | 家庭を維持していくために誰がどのような役割を果たしているのか考える | |
| 第11回 | 中年期女性の選択 | アイデンティティの発達について復習しておく | |
| 第12回 | 支え、支えられる中高年期 | コンボイについて調べる | |
| 第13回 | うつと女性：なぜ性差があるのか | 講義内容の復習 | |
| 第14回 | ジェンダーの問題としてDVを考える | 居住地域の男女共同参画センターについて調べる | |
| 第15回 | 国際比較から日本の女性を考える | ジェンダーギャップ指数について調べる | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | |
| 定期試験 | なし | | |
| レポート | 20% 中間レポート：授業の内容に関連した新聞・雑誌の記事を用いたレポート 1500字程度 30% 学期末レポート | | |
| 小テスト等 | なし | | |
| 成果発表 | なし | | |
| 受講態度他 | 50% 毎回のショートライティング（学習内容の確認／意見） フォーラムへの質問のうち、受講者の学びに貢献する良い質問を評価します。 | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | 当たり前と思っていたことが、実は当たり前ではなく、自分が気づいていなかったジェンダーの問題かもしれません。漠然と聞くのではなく、将来の自分や身近な女性をイメージし、自己関与しながら受講してください。授業中のスマホ操作は厳禁です。 | | |
| 教科書 | 毎回資料を配布する | | |
| 指定図書 | 使用しない | | |
| 参考図書 | 肥田幸子・太田和佐・堀篤実・清水紀子・大見サキエ（著）『女性心理学 一現代を女性として生きるために』 唯書書房 園田雅代・平木典子・下山晴彦（著）『女性の発達臨床心理学』金剛出版 | | |
| オフィスアワー | 金曜日昼休み・4限 遠隔授業中は授業内容に関してはフォーラムで、それ以外はメールにて。 | メールアドレス | |

| | | | |
|-------------------------|---|--------------------|----|
| 授業科目 | 心理学概論Ⅰ【講義】 | 開講時期 | 前期 |
| 担当教員 | 榊 祐子 | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | 人間の多面的理解に貢献してきた心理学の諸領域について概観し、特に、人間の発達や性格、社会的行動に関する基礎的知識の習得を目指す。 それぞれの領域における重要な事項を選択し、日常的なテーマなども取り入れながら、心理学概論Ⅱとあわせて、心理学全般にわたる基本概念を学ぶ。単なる知識の獲得にとどまらず、自分自身の性格や行動、日常生活における対人関係などと関連付けながら理解を深めていく。 | | |
| 到達目標 | ①人間の発達段階や理論について比較し、それぞれの特徴を具体的に述べる事が出来る ②性格の特性や分類を説明し、自らの性格と関連づけて述べる事が出来る。 ③集団における行動の特徴について説明することが出来る ④日常生活での経験やこれまでの体験を発達、社会、人格などの視点から解釈し説明することが出来る | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | 心 (3) -②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。 心 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | |
| 第1回 | 心理学とは①：心理学の起源、歴史 | 心理学の歴史についての復習 | |
| 第2回 | 心理学とは②：心理学の諸領域と関連領域 | 心理学の領域と成果についての復習 | |
| 第3回 | 発達①：人間の発達段階とは | 発達段階の特徴についての復習 | |
| 第4回 | 発達①：発達段階の理論 | 発達理論の整理と復習 | |
| 第5回 | 発達③：言語の発達 | 言語の発達についての復習 | |
| 第6回 | 発達④：社会性の発達 | 家族や友人関係の発達についての復習 | |
| 第7回 | まとめ①：心理学の歴史、発達 | 心理学の歴史と発達心理学の整理 | |
| 第8回 | 性格①：人格の特性について | 人格のとらえ方の復習 | |
| 第9回 | 性格②：性格の分類 | 人格理論の復習 | |
| 第10回 | 性格③：性格の形成 | 性格形成の要因についての復習 | |
| 第11回 | 性格④：集団と性格 | 集団が正確に与える影響についての復習 | |
| 第12回 | 社会①：集団における個人の行動 | 集団における性格と行動についての復習 | |
| 第13回 | 社会②：個人と対人関係 | 個人と社会的知覚についての復習 | |
| 第14回 | 社会③：同調行動について | 同調行動の経験についての振り返り | |
| 第15回 | まとめ②：人格、社会 | 人格と社会心理学の振り返り | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | |
| 定期試験 | なし | | |
| レポート | 40% 歴史、発達、人格、社会の領域からそれぞれテーマを設定し、調べてまとめる 30% まとめ①、②のまとめレポート | | |
| 小テスト等 | なし | | |
| 成果発表 | なし | | |
| 受講態度他 | 30% 授業に関するコメントや講義内容に関するショートレポート | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | 授業中の私語、携帯電話の使用、不要な途中退席は慎むこと。 | | |
| 教科書 | 指定なし | | |
| 指定図書 | 指定なし | | |
| 参考図書 | 適宜紹介 | | |
| オフィスアワー | 火曜日 2限 | メールアドレス | |

| | | | |
|-------------------------|---|--|----|
| 授業科目 | 知的障がい者の教育【講義】 | 開講時期 | 後期 |
| 担当教員 | 稲田 八穂 | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | 知的障がいを中心とした発達障がい教育の歴史と現状、基本的理解、教育課程、指導の方法がわかる。各々の幼児・児童・生徒のニーズを正確に把握し、適切に対応できる教育課程のありかた、支援教育のありかたについての理解を深める。 知的障がいを中心とした発達障がい教育の歴史と現状、基本的理解、教育課程、指導の方法の概説を学んでいく。各々の幼児・児童・生徒のニーズを正確に把握し、適切に対応できる教育課程のありかた、支援教育のありかたについての理解と深化を 目指していく。 | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・知的障害児・者や肢体不自由児・者の教育の歴史や法、現状等について説明できる。 ・知的障害児・者や肢体不自由児・者の基本的知識、発達特徴について説明できる。 ・知的障害児・者の多様なニーズに応える指導について説明することができる。 ・知的障害児・者の自立活動に向けての支援について述べることができる。 | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | 心 (3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。 福 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 この科目は小学校教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | |
| 第1回 | オリエンテーション 知的障害について | 復習： 知的障害のイメージ、受講に対する意欲をまとめる | |
| 第2回 | 知的障害の基礎知識（定義、DSM-IVとDSM-Vの比較を通して） | 予習： 配付資料を読む 復習： 復習：DSM-IV、5についてまと | |
| 第3回 | 知的機能に関する実態把握について（知的機能に関する検査及び実施の留意事項） | 予習： 検査の種類を調べる。 復習： 実施の留意点をまとめる。 | |
| 第4回 | 知的障害児・者に応じた教育課程編成 1（教育的対応の基本） | 予習： 学習指導要領を読む。 復習： 障害に応じた教育課程をまとめ | |
| 第5回 | 知的障害児・者に応じた教育課程編成 2（特別支援学校における知的障害） | 予習： 配付資料を読む 復習： 特別支援学校についてまとめ | |
| 第6回 | 知的障害児・者に応じた教育課程編成 3（特別支援学校以外における知的障害） | 予習： 配付資料を読む 復習： 特別支援学校以外についてま | |
| 第7回 | 知的障害児・者に応じた教育課程編成 4（幼稚部における指導） | 予習： 配付資料を読む。 復習： 幼稚部の指導についてまとめ | |
| 第8回 | 知的障害児・者に応じた教育課程編成 5（教科の指導） | 予習： 配付資料を読む。 復習： 教科の指導についてまとめる。 | |
| 第9回 | 知的障害児・者に応じた教育課程編成 6（教科外の指導） | 予習： 配付資料を読む。 復習： 教科外の指導についてまとめ | |
| 第10回 | 知的障害児・者の教育を支援する情報機器等の活用 | 予習： 配付資料を読む 復習： 効果的な情報機器の使用を考 | |
| 第11回 | 自立活動に向けての支援 | 予習： 学習指導要領を読む。 復習： 指導内容、形態について考える。 | |
| 第12回 | 進路指導（キャリア教育）と職業教育 | 予習： 配付資料を読む。 復習： キャリア教育の必要性をまと | |
| 第13回 | 個別の支援計画、個別の教育指導計画について | 予習： 学習指導要領を読む 復習： 計画の作成の必要性をまとめ | |
| 第14回 | 事例を通して個別の指導計画の作成 | 予習： 配付資料を読む 復習： 個別の教育指導計画を完成さ | |
| 第15回 | 関係機関との連携、保護者の支援 | 予習： 関係機関について調べる 復習： 保護者の支援についてまとめる。 | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | |
| 定期試験 | 50％ | | |
| レポート | なし | | |
| 小テスト等 | 20％（まとめごとに実施） | | |
| 成果発表 | 20％（個別の支援計画を提出） | | |
| 受講態度他 | 10％（グループ討議等） | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | 講義が中心ですが、グループ討議に時間を取ります。 | | |
| 教科書 | 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編』文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編』文部科学省（他の講義で購入予定） | | |
| 指定図書 | なし | | |
| 参考図書 | 『特別支援教育の基礎・基本』独立行政法人国立特別支援教育総合研究所(2015) | | |
| オフィスアワー | 水曜日、木曜日午後 | メールアドレス | |

| | | | | |
|-------------------------|---|------------------------------------|------|----|
| 授業科目 | 道徳教育指導論【講義】 | | 開講時期 | 前期 |
| 担当教員 | 薄 千里 | | 単 位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | <p>道徳教育の目標、道徳科の目標、道徳科の内容・指導・評価等について理解し、学習指導案の作成と模擬授業を通じて、道徳科の授業ができる実践的指導力を身に付ける。</p> <p>授業においては、講義を通じて道徳教育の目標、道徳科の目標、道徳科の内容・指導・評価等について理解する。個人及びグループワークを通じて、ねらいの設定、教材の分析、学習指導案と教材・教具の作成、模擬授業、その分析と考察を行い、実践的な指導力を身に付ける。</p> | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1 道徳教育の目標、道徳科の目標、道徳科の内容・指導・評価等について理解し、説明することができる。 2 作成の手順に沿って学習指導案を作成することができる。 3 基本的な学習指導過程に沿って模擬授業を行うことができる。 4 模擬授業について、授業の視点に沿って分析し考察することができる。 | | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | <p>初 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p><授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は小学校教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p> | | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | | |
| 第1回 | 道徳教育の目標、道徳科の目標、小学校学習指導要領の改正 「心に残っている道徳の授業についてグループディスカッション・全体発表 | 道徳教育の目標、道徳科の目標を確認し、ノートにまとめる。 | | |
| 第2回 | 道徳科の内容、指導計画の作成、道徳科の指導 | 道徳科の内容を確認する。教材を精読する。 | | |
| 第3回 | 道徳科の授業（師範授業）の体験とディスカッション 学習指導案作成について、教材の活用について | 道徳科の授業を振り返り、ノートにまとめる。 | | |
| 第4回 | 学習指導案の作成（グループワーク）1 ねらい、教材分析、学習指導過程 | 教材を精読し、分析する。 | | |
| 第5回 | 学習指導案の作成（グループワーク）2 教材提示・発問・話し合い活動・書く活動の工夫 | 学習指導案を作成する。 | | |
| 第6回 | 学習指導案の作成（グループワーク）3 板書を生かす工夫、表現活動・説話等の工夫 | 学習指導案を作成し、提出の準備をする。 | | |
| 第7回 | 学習指導案の作成（グループワーク）4 教材作成 | 学習指導案の提出。教材作成。 | | |
| 第8回 | 模擬授業と分析・考察（ディスカッション）1 教材提示の工夫 | 模擬授業の振り返りを行い、レポートを作成する。模擬授業の準備を行う | | |
| 第9回 | 模擬授業と分析・考察（ディスカッション）2 発問の工夫 | 模擬授業の振り返りを行い、レポートを作成する。模擬授業の準備を行う。 | | |
| 第10回 | 模擬授業と分析・考察（ディスカッション）3 話し合い活動の工夫 | 模擬授業の振り返りを行い、レポートを作成する。模擬授業の準備を行う。 | | |
| 第11回 | 模擬授業と分析・考察（ディスカッション）4 書く活動の工夫 | 模擬授業の振り返りを行い、レポートを作成する。模擬授業の準備を行う。 | | |
| 第12回 | 模擬授業と分析・考察（ディスカッション）5 表現活動の工夫 | 模擬授業の振り返りを行い、レポートを作成する。模擬授業の準備を行う。 | | |
| 第13回 | 模擬授業と分析・考察（ディスカッション）6 板書を生かす工夫、説話等の工夫 | 模擬授業の振り返りを行い、レポートを作成する。 | | |
| 第14回 | 道徳性の理解と評価 | 「解説」を読み、ノートにまとめる。 | | |
| 第15回 | 道徳教育の目標、道徳科の目標、模擬授業、講義内容等から道徳科の指導のあり方と「心に残っている道徳 | 道徳教育の目標等について整理し、記述できるようになる。 | | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | | |
| 定期試験 | なし | | | |
| レポート | 40％ | | | |
| 小テスト等 | なし | | | |
| 成果発表 | 40％（模擬授業） | | | |
| 受講態度他 | 20％（グループ・全体討議の参加状況を含む。） | | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | <p>模擬授業への取組み、討議の状況を重視する。</p> <p>将来教職に就くことを前提に、それにふさわしい態度で受講すること。</p> <p>配布資料をファイルしていくこと。</p> | | | |
| 教科書 | 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』（平成29年7月） | | | |
| 指定図書 | なし | | | |
| 参考図書 | 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）』 | | | |
| オフィスアワー | 水曜日午後 | メールアドレス | | |

| | | | |
|-------------------------|--|---------------------------------|----|
| 授業科目 | 特別支援教育論【講義】 | 開講時期 | 後期 |
| 担当教員 | 稲田 八穂 | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | <p>我が国の特別支援教育は、特殊教育から特別支援教育へ、さらにインクルーシブ教育へと大きな転換期を迎えている。これからの特別支援教育のために、(1) 特殊教育の理念、制度及び展開、(2) 特別支援教育の理念、制度 (3) 特別支援教育の教育課程、各種障害と教育方法、(4) 個別の支援計画・指導計画、自立活動、(5) インクルーシブ教育のシステム構築などについて理解する。</p> <p>特別支援教育の基礎知識を総合的に講義し、特別支援教育の理念、障害概念、教育制度などを学ぶ、さらに、様々な支援対象児の特性と教育的支援の原則を理解し、個々のニーズ（外国語にルーツをもつ児童生徒・経済的に困難な状況にある児童生徒等）に応じた指導方法を考える。</p> | | |
| 到達目標 | <p>○特別支援教育の歴史的・基本的な体系を理解することができる。</p> <p>○特別支援教育の対象児の特性を理解し、大まかな指導・支援内容を理解することができる。</p> <p>○多様な特性を有する支援対象児童について、個に応じた支援方法を考えることができる。</p> <p>○インクルーシブ教育の理念について理解し、その概要を説明することができる。</p> | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | <p>初 (1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」</p> <p>初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>幼 (1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」</p> <p>幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p><授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 この科目は小学校教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p> | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | |
| 第1回 | オリエンテーション・特別支援教育とは どのような障害に対して特別支援が実施されるのか、その理念や概要を知る。 | 復習：特別支援教育について考える | |
| 第2回 | 戦前の特殊教育の成立とその制度 戦前までの「特殊教育」について、成立過程の制度・仕組みなどの歴史的概要を理解する | 予習：配布資料を読む 復習：「特殊教育」についてまとめる | |
| 第3回 | 戦後の特殊教育への転換 「特殊教育」から「特別支援教育」へ転換が必要になった理由やその過程を理解する。 | 予習：配布資料を読む 復習：「特別支援教育」への経緯をま | |
| 第4回 | 特別支援学校の成立、現状と課題 障害児の教育措置について、学校教育法などをもとに理解する。 | 予習：配布資料を読む 復習：特別支援学校の課題について | |
| 第5回 | 障害の理解① 肢体不自由児教育（実態把握・評価技法・個別の指導計画） 肢体不自由児の病状や就学の状況を知り、教育的環境整備や指導の工夫について考える。 | 予習：配布資料を読む 復習：肢体不自由児教育について | |
| 第6回 | 障害の理解② 知的障害児教育（実態把握・評価技法・個別の指導計画） 知的障害児の病状や就学の状況を知り、教育的環境整備や指導の工夫について考える。 | 予習：配布資料を読む 復習：知的障害児教育について | |
| 第7回 | 障害の理解③ 視覚障害児教育（実態把握・評価技法・個別の指導計画） 視覚障害児の病状や就学の状況を知り、教育的環境整備や指導の工夫について考える。 | 予習：配布資料を読む 復習：視覚障害児について | |
| 第8回 | 障害の理解④ 聴覚障害児教育（実態把握・評価技法・個別の指導計画） 聴覚障害児の病状や就学の状況を知り、教育的環境整備や指導の工夫について考える。 | 予習：配布資料を読む 復習：聴覚障害児教育について | |
| 第9回 | 障害の理解⑤ 病弱児教育（実態把握・評価技法・個別の指導計画） 病弱児の病状や就学の状況を知り、教育的環境整備や指導の工夫について考える。 | 予習：配布資料を読む 復習：病弱児教育について | |
| 第10回 | 障害の理解⑥ 発達障害児教育・特別なニーズのある子ども（実態把握・評価技法・個別の指導計画） | 予習：配布資料を読む 復習：発達障害児の教育について | |
| 第11回 | 特別支援学校における校内体制の在り方（自立活動の指導） 障害児を受け入れるために特別支援学校でどのような体制、措置が取られているか理解する | 予習：配布資料を読む 復習：特別支援学校の校内体制の在り | |
| 第12回 | 特別支援学級、普通学級の発達障害児を受け入れる校内体制のあり方（通級による指導も含めて） | 予習：配布資料を読む 復習：普通学級の校内支援の在り方 | |
| 第13回 | 保護者支援及び地域・諸機関との連携 諸機関の役割を理解し、保護者を交えた連携をどのようにしていけばいいかを考える。 | 予習：配布資料を読む 復習：諸機関や保護者との連携の在り | |
| 第14回 | インクルーシブ教育の動向と我が国におけるインクルーシブ教育システムの構築 先進国におけるインクルーシブ教育の動向を受け、我が国のあり方を考える。 | 予習：配布資料を読む 復習：インクルーシブ教育の動向 | |
| 第15回 | 学習のまとめ これからの時代に求められる特別支援教育 現代の時代背景（母国語や貧困問題等による教育的ニーズ）を踏まえたこれからの教育 | 予習：配布資料を読む 復習：これからの特別支援教育につい | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | |
| 定期試験 | 60％ | | |
| レポート | なし | | |
| 小テスト等 | なし | | |
| 成果発表 | 30％（グループ活動・発表） | | |
| 受講態度他 | 10％（積極的な意見発表） | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | 節目のミニ課題、小テストを実施します。（詳細は講義内で予告します。） | | |
| 教科書 | 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説解説書 総則編』文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説解説書 自立活動編』文部科学省（他の講義で購入予定） | | |
| 指定図書 | なし | | |
| 参考図書 | 随時提示します | | |
| オフィスアワー | 水曜日、木曜日午後 | メールアドレス | |

| | | | | |
|-------------------------|--|---------------------------------|------|----|
| 授業科目 | 発達と教育【講義】 | | 開講時期 | 後期 |
| 担当教員 | 石原 努 | | 単 位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | <p>本講義は、幼児・児童・生徒の各発達段階の特徴、諸側面の発達過程とその特徴を学び、近年の子どもたちに特徴的にみられる発達の様相や問題について考察することにより、子どもの心身の発達についての理解を深めることを目的とする。さらに特別支援教育において対象とされる発達障害の概要とその支援方法や支援体制についても学習することを目的とする</p> <p>近年の子どもたちは発達上の問題を多く抱えている。本講義では、子どもの発達についての理解を深める中で、教育実践への活用を目指した学習をすすめていく。さらに、発達障害に対する正しい知識と支援の方法をあわせて身につけていってほしい。学生には、目ごろから教育や子どもに関係する事柄に関心を持ち、情報の収集に努めてほしい。</p> | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期から青年期までの発達段階の特徴を述べることができる。 ・ソーシャルスキル、ことばの発達過程について説明することができる。 ・発達上の問題について考察し、必要な教育活動・支援について自分の見解を述べるができる。 ・発達障害について説明でき、その支援方法について述べるができる。 | | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | <p>初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p><授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は心理相談・特別支援教育、小学校教員の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p> | | | |
| 授業計画 | 授 業 内 容 | 授 業 外 学 修 等 | | |
| 第 1回 | オリエンテーション 発達の定義 | 発達の意義についてまとめる | | |
| 第 2回 | 発達の原理 | 発達の原理についてまとめる | | |
| 第 3回 | 発達段階の特徴① 乳児期～幼児期 | 乳児期から幼児期の発達の特徴をまとめる | | |
| 第 4回 | 発達段階の特徴② 児童期 | 児童期の発達の特徴をまとめる | | |
| 第 5回 | 発達段階の特徴③ 青年期 | 青年期の発達の特徴をまとめる | | |
| 第 6回 | 発達段階の特徴④ まとめ | ピアジェ・エリクソン・ハヴィガーストの発達理論についてまとめる | | |
| 第 7回 | 発達と教育支援① アセスメント 評価方法 | アセスメントの方法等についてまとめる | | |
| 第 8回 | 発達と教育支援② 学習理論 | 学習理論のその支援方法についてまとめる | | |
| 第 9回 | 発達と教育支援③ 動機づけ | 動機づけの方法等についてまとめる | | |
| 第10回 | 発達と教育支援④ まとめ | 教育支援の在り方についてまとめる | | |
| 第11回 | 発達障害とその支援① SST TEACCH | SSTやTEACCHの手法についてまとめる | | |
| 第12回 | 発達障害とその支援② ASD | ASD児への支援方法についてまとめる | | |
| 第13回 | 発達障害とその支援③ ADHD | ADHD児への支援方法についてまとめる | | |
| 第14回 | 発達障害とその支援④ LD | LD児への支援方法についてまとめる | | |
| 第15回 | 発達と教育のまとめ | 発達と教育の最終レポートを作成する | | |
| 成績評価 | 割 合 (%) 、 種 類 ・ 評 価 基 準 等 | | | |
| 定期試験 | なし | | | |
| レポート | 70% 発達と教育に関する内容を整理してかんがえをまとめレポートする。 | | | |
| 小テスト等 | なし | | | |
| 成果発表 | 10% 講義内で話し合った内容等の発表 | | | |
| 受講態度他 | 20% グループワークへの参加態度等 | | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | 受講態度については、幼稚園教諭、保育士、小学校教諭等にふさわしい態度を求めます。遅刻、私語、居眠り、携帯電話の使用は厳禁です。 | | | |
| 教科書 | なし | | | |
| 指定図書 | なし | | | |
| 参考図書 | 「よくわかる発達心理学」「よくわかる発達障害」 ミネルヴァ書房 | | | |
| オフィスアワー | 月曜日1限 | メールアドレス | | |

| | | | | |
|-------------------------|---|---------------|------|----|
| 授業科目 | 発達心理学 I 【講義】 | | 開講時期 | 前期 |
| 担当教員 | 水内 良子 | | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | 発達心理学では受精から死までの一生涯にわたる発達について学習する。発達心理学 I では胎児期、乳幼児期、児童期までを中心とし、発達について学ぶことを目的とする。認知機能の発達、感情・社会性の発達、自己と他者の関係のあり方など心理学的な視点から学びを深めていく。さらに、発達障害等を含む非定型発達についての基礎的な知識を身につける。また、子どもを理解するための視点や子どもが健やかに成長していくための援助の在り方についても理解を深める。 | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・各時期の発達の特徴を説明することが出来る。 ・認知・感情・社会性・人間関係など諸側面の発達について概観を述べる事が出来る。 ・子どもの発達と周囲の大人からの働きかけについて述べる事が出来る。 ・発達障害等を含む非定型発達について説明することが出来る。 | | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | <p>心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。</p> <p>福 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p><授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p> | | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | | |
| 第1回 | 生涯発達心理学とは | 教科書はしがき、0章の復習 | | |
| 第2回 | 各時期における発達の特徴・発達の理論 | 教科書1章の復習 | | |
| 第3回 | 胎児期の発達 | 教科書2章の復習 | | |
| 第4回 | 乳児期 認知の発達 | 教科書3章の復習 | | |
| 第5回 | 乳児期 社会性の発達 | 教科書第4章の復習 | | |
| 第6回 | 乳児期 言葉と遊びの発達 | 教科書第5章の復習 | | |
| 第7回 | 幼児期 認知・自己理解の発達 | 教科書6章の復習 | | |
| 第8回 | 幼児期 社会性の発達 | 教科書7章の復習 | | |
| 第9回 | 幼児期 言葉と遊びの発達 | 教科書5章の復習 | | |
| 第10回 | 児童期 認知・仲間関係の発達 | 教科書8章の復習 | | |
| 第11回 | 児童期 学校での学び | 教科書8章の復習 | | |
| 第12回 | 児童期 動機づけ | 教科書8章の復習 | | |
| 第13回 | 非定型発達への理解(1) | 教科書13章の復習 | | |
| 第14回 | 非定型発達への理解(2) | 教科書13章の復習 | | |
| 第15回 | 発達を測る・乳幼児健診 | 期末レポートへの準備 | | |
| 成績評価 | 割合(%)、種類・評価基準など | | | |
| 定期試験 | 期末レポート 40% | | | |
| レポート | 小レポート(3回) 30% | | | |
| 小テスト等 | - | | | |
| 成果発表 | - | | | |
| 受講態度他 | 授業資料のPowerPointを見て学習し、学習後に授業の感想を筑女ネットに書き込んでください(出席評価30%) | | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | この授業はオンデマンド型の授業になります。 | | | |
| 教科書 | 坂上裕子他著 『問いからはじめる発達心理学 生涯にわたる育ちの科学』 有斐閣 | | | |
| 指定図書 | なし | | | |
| 参考図書 | 授業中に紹介する | | | |
| オフィスアワー | 筑女ネットにて質問等受け付けます。 | メールアドレス | | |

| | | | | |
|-------------------------|--|----------------------------------|------|----|
| 授業科目 | 発達心理学Ⅱ【講義】 | | 開講時期 | 後期 |
| 担当教員 | 板井 修一 | | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | この科目は、基礎科目のうち人間理解に関する科目である。学部における4年間の学びや研究に必要な理論・技法を身につけ、そのうえでひとの心の発達とはどういうことを理解するための科目である。思春期と青年期は、人の一生のなかでも、身体的・精神的に大きな成長、変化を体験する時期でもある。青年期は疾風怒濤の時代と表現されることもあるように、精神的に不安定になる危険性を孕んでいるが、アイデンティティの獲得が発達課題ともなる重要な時期でもある。その後の成人期は、仕事や子育てに没頭する時期でもあるが、中年期には心の揺らぎが生ずる危機を孕んだ時期でもある。老年期は人生の完結期とも言われるが、さまざまな心の拠り所としていたものを失う、喪失を体験する危機の時でもあります。授業は、各発達段階の特徴について、理解し説明できるようになることを目的とする。 | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 各発達段階の特性を理解し、説明することができる。 2. 各発達段階における発達課題について、的確に説明することができる。 3. 各発達段階における適応上のつまずきと病気について、説明することができる。 | | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | <p>心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。</p> <p>福 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p><授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>関連する科目：発達心理学Ⅰ</p> <p>この科目は障がい児福祉・心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行い</p> | | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | | |
| 第1回 | 思春期の特性、第二次性徴と身体的発達 | 自分の思春期体験について振り返りまとめる | | |
| 第2回 | 思春期の心理と危機 | 自分の思春期を振り返り、親や大人との関係について分析・整理 | | |
| 第3回 | 青年期の特色 | 「アイデンティティ」とは何かについて調べる | | |
| 第4回 | 青年期の心理特性（1）青年中期 | アイデンティティ獲得をテーマとした映画を視聴 | | |
| 第5回 | 青年期の心理特性（2）青年後期 | 視聴した映画について内容を分析・整理 | | |
| 第6回 | 青年期の発達課題 | 自分のアイデンティティ確立のプロセスと現状について点検しまとめる | | |
| 第7回 | 成人期の特色 | 成人期に関係した配布資料を読む | | |
| 第8回 | 成人期の心理と中年の危機 | 中年世代の心理的危機について、さまざまな情報源から実例を探す | | |
| 第9回 | 成人期の発達課題 | 親の生き方から、成人期の発達課題を点検・整理する | | |
| 第10回 | 老年期の特色 | 老年期に関連する配布資料を読む | | |
| 第11回 | 老化に伴う身体的変化 | 老化に伴う身体的変化とエイジズムについて調べる | | |
| 第12回 | 老年期の心理 | 高齢者の自殺の実態について、新聞や雑誌をもとに調べる | | |
| 第13回 | 老年期の発達課題 | 高齢者の生き甲斐について、新聞や雑誌をもとに調べる | | |
| 第14回 | ターミナル期の心理的課題 | ターミナルケアの実態について、新聞や雑誌をもとに調べる | | |
| 第15回 | 総括 | 総括で話した、授業内容のポイントについて復習する | | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | | |
| 定期試験 | 60% 定期試験 | | | |
| レポート | 40% [(期日内提出5点+内容5点)×4回=40点] 課題の内容は、①思春期に関するもの ②青年期に関するもの ③成人期に関するもの ④老年期に関するもの の4つである。小レポートは、提出後2週間後を目処に、採点をして返却する。 | | | |
| 小テスト等 | 0% | | | |
| 成果発表 | 0% | | | |
| 受講態度他 | 授業の進行を妨げるような私語については、厳しく注意します。 | | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | 講義をよく聴き、ノートにきちんとまとめること。4つの発達段階ごとに、まとめの小テストを実施する。授業外学習として出された課題は、各自ファイルを作成し整理をする。毎回の授業で学んだことの振り返りと考えたことを記録する「リフレクション・シート」を、授業の終わりに記入し提出をする。次の講義の初めにチェックした「リフレクション・シート」を返却する。「リフレクション・シート」の提出、返却により、講義への出席と欠席、遅刻の実態を把握する。 | | | |
| 教科書 | なし 毎回、レジュメを配布する | | | |
| 指定図書 | なし | | | |
| 参考図書 | 必要に応じて随時紹介をする。 | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の2時間目 | メールアドレス | | |

| | | | |
|-----------------------------|--|-----------------------------------|----|
| 授業科目 | 病弱者の心理・生理・病理【講義】 | 開講時期 | 前期 |
| 担当教員 | 大霧 香 | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | 特別支援学校や特別支援学級に在籍する幼児、児童又は生徒の心理や疾病等についての基礎的な知識を学ぶことで、現場で対応する力を身につける。病弱者に対する対応について理解を深める。また、病弱者のハイリスクとしての極低出生体重児（極小未熟児）についても学ぶ。病弱者の定義を学習した後、それぞれの心理や生理、病理の特徴をつかみ基礎的な対応や病弱者の支援について学ぶ。 | | |
| 到達目標 | 1. 病弱者の心理・生理・病理的特徴について説明することができる。 2. 病弱者の病気の概要や病気に対する注意点について説明することができる。 3. 病弱者に対する基礎的な対応を述べることができる。 | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | 心(3)-②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 ＜授業外学修＞1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 この科目は特別支援学校課程の専門科目です。 この科目は心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | |
| 第1回 病弱者について | | 授業内容の復習（病弱者の定義） | |
| 第2回 極低出生体重児の心理・生理・病理（1） | 極低出生体重児とは | 授業内容の復習（極低出生体重児について） | |
| 第3回 極低出生体重児の心理・生理・病理（2） | ハイリスク児への支援 | ミニレポート①（資料を読んで） | |
| 第4回 腎疾患の心理・生理・病理（1） | 腎疾患とは | ミニレポート②（慢性疾患について） 作成 授業内容の復習 | |
| 第5回 腎疾患の心理・生理・病理（2） | 腎疾患の子どもが抱えやすい問題とその対応について | ミニレポート②（慢性疾患について） 作成 授業内容の復習 | |
| 第6回 心疾患の心理・生理・病理 | 心疾患とその子どもが抱えやすい問題とその対応について | ミニレポート②（慢性疾患について） 作成 授業内容の復習 | |
| 第7回 小児の糖尿病・肥満の心理・生理・病理 | | ミニレポート②（慢性疾患について） 授業内容の復習 | |
| 第8回 てんかんの心理・生理・病理（1） | てんかんとは | ミニレポート③（てんかんについて） 作成 授業内容の復習 | |
| 第9回 てんかんの心理・生理・病理（2） | 発作に対する対応とてんかんを持つ人への配慮について | ミニレポート③（てんかんについて） 作成 授業内容の復習 | |
| 第10回 小児がんの心理・生理・病理（白血病を中心に） | | ミニレポート④（がん、アレルギー） について 授業内容の復習 | |
| 第11回 アレルギー疾患・喘息の心理・生理・病理（1） | ぜんそくを中心に | ミニレポート④（がん、アレルギー） について 授業内容の復習 | |
| 第12回 アレルギー疾患・喘息の心理・生理・病理（2） | 食物アレルギーを中心に | ミニレポート④（がん、アレルギー） について 授業内容の復習 | |
| 第13回 病弱者の家族への支援（1） | 家族の思い | ミニレポート⑤（資料を読んで） | |
| 第14回 病弱者の家族への支援（2） | 家族への支援 | ミニレポート⑤（資料を読んで） | |
| 第15回 ライフイベントと発達 まとめ | | ミニレポート⑤（資料を読んで） | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | |
| 定期試験 | なし | | |
| レポート | ミニレポート5回 85％ 課題提出 15％ | | |
| 小テスト等 | なし | | |
| 成果発表 | なし | | |
| 受講態度他 | 受講態度を考慮します。 | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | 事前に授業計画に書かれている疾患について事前学習をしておいてください。 | | |
| 教科書 | 使用しない | | |
| 指定図書 | 特になし | | |
| 参考図書 | 宮本信也・土橋圭子 『病弱・虚弱児の医療・療育・教育 改訂3版』 金芳堂 小野次朗・西牧謙吾・榎原洋一編著 『特別支援教育に生かす病弱者の心理・生理・病理』 ミネルヴァ書房 | | |
| オフィスアワー | 月曜 昼休み・5限 | メールアドレス | |

| | | | | |
|-------------------------|--|----------|-----------------|----|
| 授業科目 | 仏教福祉【講義】 | | 開講時期 | 前期 |
| 担当教員 | 宇治 和貴・盛 智照 | | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | この講義では、仏教者の社会的活動の歴史を概観し、日本社会における社会的弱者の生活実態の把握に努めるとともに、仏教が本来救済活動をどのようなものとみなすべきであったのかを考えてみたい。 | | | |
| 到達目標 | 1. 古代から現代に至る各時代において、社会的弱者がどのような状況に置かれ、いかに生きてきたかを述べることができる。 2. それぞれの時代のなかで、社会的弱者の救済のために仏教者がどのような社会的活動を行ってきたのかを説明することができる。 3. 仏教者の社会的活動が日本社会に果たしてきた役割とその課題について、自分の意見を述べることができる。 | | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | 心 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 心 (3) -②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。 心 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 心 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 ＜授業外学修＞1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 | | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | | |
| 第1回 | オリエンテーション（連絡事項・単位認定方法の説明・講義概要） | 感想カードを提出 | | |
| 第2回 | 仏教福祉を学ぶことの意義 | 感想カードを提出 | | |
| 第3回 | 仏教と福祉はどう結びつくのか | 感想カードを提出 | | |
| 第4回 | 親鸞の思想と福祉の関係性について | 感想カードを提出 | | |
| 第5回 | 現代社会の抱える課題と仏教Ⅰ | 感想カードを提出 | | |
| 第6回 | 現代社会の抱える課題と仏教Ⅱ | 感想カードを提出 | | |
| 第7回 | 平安時代における穢れの意識の展開 | 感想カードを提出 | | |
| 第8回 | 中世被差別民の形成と仏教 | 感想カードを提出 | | |
| 第9回 | 鎌倉仏教と救済事業 | 感想カードを提出 | | |
| 第10回 | 幕藩体制下での仏教救済事業 | 感想カードを提出 | | |
| 第11回 | 明治維新と仏教側の対応 | 感想カードを提出 | | |
| 第12回 | 仏教慈善事業の一環としての仏教保育事業 | 感想カードを提出 | | |
| 第13回 | 戦時厚生事業と仏教 | 感想カードを提出 | | |
| 第14回 | 戦後社会福祉の展開と仏教 | 感想カードを提出 | | |
| 第15回 | まとめ | 感想カードを提出 | | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | | |
| 定期試験 | － | | | |
| レポート | 50％ 講義中に提出のレポートで評価します。 | | | |
| 小テスト等 | － | | | |
| 成果発表 | － | | | |
| 受講態度他 | 50％ 受講態度から総合的に判断します。 | | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | 講義で配布するプリントや、講義中に使用した用語などで分からないことは辞書で調べる努力をしてください。 | | | |
| 教科書 | 適宜プリント配布 | | | |
| 指定図書 | 特に指定しない | | | |
| 参考図書 | 特になし | | | |
| オフィスアワー | 火～木の3講目 | メールアドレス | 各教員の他科目のシラバスを参照 | |

| | | | | |
|----------------------------------|--|----------------|-------------------------------------|----|
| 授業科目 | 保育原理【講義】 | | 開講時期 | 前期 |
| 担当教員 | 原 陽一郎 | | 単 位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | <p>保育とは何かについて考察し、理解を深める。さらに、保育者、あるいは子どもに関わる者として必要な保育についての基本的な視点や姿勢を身につけることを目的とする。</p> <p>授業では、家庭や社会の変容から現代の保育所や幼稚園、幼保連携型認定こども園等の保育施設についての意義と目的について考える。「子ども・子育て関連3法」による保育制度及び幼稚園教育要領、保育所保育指針等について理解し、これからの保育、就学前教育について考察する。また、子どもの発達にとっての集団や活動・遊びの重要性についてもふれながら、子ども観や発達観を検討する。さらに、先人達の保育思想や構想した保育施設等を概観することによって、時代や国を越えて現代にも生かすべき子ども観や保育観などについて理解を深めていく。最後に、授業での学びから、わが国の保育・就学前教育の課題について、自分の言葉で説明できるようになる。</p> | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所、幼稚園、幼保連携型認定こども園等の保育施設の特徴を的確に説明することができる。 2. 制度としての保育所や幼稚園、幼保連携型認定こども園の目的や役割について、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいて的確に説明することができる。 3. 保育の内容と方法の基本について説明することができる。 4. 「子ども・子育て関連3法」にもとづく新制度の特徴を説明することができる。 5. 保育の思想とそれに伴う保育施設の歴史的変遷を理解し、説明することができる。 6. 現代の保育所や幼稚園、幼保連携型認定こども園等保育施設の課題について、自分の意見を述べることができる。 | | | |
| この授業が目的として関与するDPや関連する科目など | <p>心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。</p> <p>福 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。</p> <p>初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p><授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は保育士としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p> | | | |
| 授業計画 | 授 業 内 容 | | 授 業 外 学 修 等 | |
| 第1回 | 保育とは何か～理念と概念について | | 教科書第1章を読む。講義を元に現在の自分の保育についての考えを整理する | |
| 第2回 | 保育の歴史に学ぶ①ルソー、フレーベル、ロバート・オーエン | | 教科書第9章の該当箇所を読んで整理する。 | |
| 第3回 | 保育の歴史に学ぶ②日本の保育の歴史 | | 教科書第9章の該当箇所を読んで整理する。 | |
| 第4回 | 子ども理解と保育①「子ども」とはどんな存在か | | 教科書第2章を読む。 | |
| 第5回 | 子ども理解と保育②現在の子どもの育ちの問題点 | | 教科書第2章および資料を読んで整理する。 | |
| 第6回 | 保育の方法①生活と遊びを通して行うとは | | 教科書第4章を読む。 | |
| 第7回 | 保育の方法②遊びとは何か | | 教科書第4章をまとめる。 | |
| 第8回 | 保育の内容① 養護とは何か | | 教科書第3章を読む。 | |
| 第9回 | 保育の内容② 5領域の考え方 | | 教科書第3章をまとめる | |
| 第10回 | 保育の計画と評価 | | 教科書第5章を読む。 | |
| 第11回 | 多様な子どもの理解と保育 | | 教科書第10章を読む。 | |
| | 保育に関わる法律と制度① 学教教育法、児童福祉法、就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律 | | 教科書第12章を読む | |
| | 保育に関わる法律と制度② 幼稚園設置基準、児童福祉施設の設置及び運営に関する基準、幼保連携型認定こども園の学級の編制、職員、設備及び運営に関する基準 | | 保育資料集からまとめる | |
| | 保育者の専門性と資質向上 | | 教科書第8章を読む | |
| | 保育とは何か・再考 | | 保育について考えがどのように変化してきたかについてまとめる | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | | |
| 定期試験 | 60％ 期末テスト 基本的事項についての知識を問う | | | |
| レポート | 30％ 保育とは何か 講義受講前と受講後の変化について考える | | | |
| 小テスト等 | 0％ | | | |
| 成果発表 | 0％ | | | |
| 受講態度他 | 10％ 意見発表等をもとに講義に対する参加意欲を評価する | | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業はシラバスの予定に沿って行う。教科書通りではないが、関連の章は記載しているので、教科書は授業前に読んでおくこと ・社会情勢や制度変更等により、授業計画を変更する場合がある。その都度伝達したうえで授業の予定を変更する。 ・授業中、随時質問するので、主体的授業参加をすること。 | | | |
| 教科書 | 汐見稔幸・無藤隆・大豆生田啓友(2019) 「アクティベート保育学①保育原理」 ミネルヴァ書房 保育福祉小六法編集委員会(編集) 「保育福祉小六法 2019年版保育福祉小六法」 みらい | | | |
| 指定図書 | 宍戸健夫(1988) 「日本の幼児保育一昭和保育思想史〈上〉〈下〉(青木教育叢書)」 青木書店 | | | |
| 参考図書 | 清水陽子・門田理世・牧野桂一・松井尚子編(2017) 「保育の理論と実践」 ミネルヴァ書房 | | | |
| オフィスアワー | 火曜日5限 | メールアドレス | | |

| | | | | |
|--------------------------------|--|-------------------------------------|-------------|----|
| 授業科目 | 保育内容総論【演習】 | | 開講時期 | 前期 |
| 担当教員 | 原 陽一郎 | | 単 位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | 本講義では、幼稚園教育要領、保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領の「保育目標」、「子どもの発達」、「保育の内容」を関連づけ、保育の全体的な構造を理解することが目的である。また、保育の基本は「生活」や「遊び」であることを、体験を通して認識し、深めていく。 | | | |
| 到達目標 | ①保育の全体構造と保育内容5領域との関係を説明できる。 ②幼稚園教育、保育所保育の歴史の変遷から、現在実施されている保育の多様性の理由と問題点を具体的に述べる。 ③「遊び」の重要性を説明できる。 | | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | 初 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 初 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 初 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 担当教員の中には保育士としての実務経験のある者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。 | | | |
| 授業計画 | 授 業 内 容 | 授 業 外 学 修 等 | | |
| 第1回 | 幼稚園教育要領における保育内容のとらえ方 | 要領・指針の総則を読む | | |
| 第2回 | 保育所保育指針における保育内容のとらえ方 | 要領・指針の総則のポイントを理解する | | |
| 第3回 | 認定こども園教育・保育要領における保育内容のとらえ方③ | 要領・指針の第2章を読む | | |
| 第4回 | 子どもの認識や思考、動きを理解する① 鬼ごっこなど | 遊びを通して鬼ごっこで育つ認識、思考、動きを把握し、まとめる | | |
| 第5回 | 子どもの認識や思考、動きを理解する② 伝承遊び | 遊びを通して伝承遊びで育つ認識、思考、動きを把握し、まとめる | | |
| 第6回 | 子どもの認識や思考、動きを理解する③チャンバラ、コーン倒しなど攻撃的集団あそびの重要性について | 攻撃性を合法的に発散する遊びで育つ認識、思考、動きを把握し、まとめる | | |
| 第7回 | 教材から生活力を育てる① 三つ編み縄跳びづくり | 布の特性などを知ることなど教材から生活力を高める方法を考えてまとめる。 | | |
| 第8回 | 教材から生活力を育てる② 雑巾縫い | 生活の意識を高めるための教材としての活用法について考え、まとめる | | |
| 第9回 | 情報機器の活用法と課題 | 配付された資料を読み、情報機器の活用法と課題についてまとめる | | |
| 第10回 | 保育実践の動向① 3歳未満児 | 要領・指針の2017年改訂の内容についてまとめる | | |
| 第11回 | 保育実践の動向② 環境設定を重視した保育の留意点 | どのような形態の保育があるのか、調べておくこと | | |
| 第12回 | 保育実践の動向③ 長時間保育 | 長時間保育について配付された資料を読む | | |
| 第13回 | 保育実践の動向④ 特別支援教育 | 特別支援教育について配付された資料を読む | | |
| 第14回 | 保育を評価する方法について | 要領・指針の保育の評価の項目を読む | | |
| 第15回 | 小学校教科とのつながり | 学習指導要領を読む | | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | | |
| 定期試験 | 50％ 基本的事項について | | | |
| レポート | 20％ 各講義内容についてのまとめ | | | |
| 小テスト等 | なし | | | |
| 成果発表 | 20％ 製作物の提出・課題の達成度 | | | |
| 受講態度他 | 10％ 意見発表などの受講態度 | | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | とくに、遊びや生活についての講義には積極的な態度で参加すること。 | | | |
| 教科書 | 清水陽子・森真理編著 「共に育つ保育を探究する保育内容総論」 建帛社 2019 | | | |
| 指定図書 | なし | | | |
| 参考図書 | 幼少年教育研究所『遊びの指導 乳・幼児編』同文書院（2009） | | | |
| オフィスアワー | 木曜日1限目 | メールアドレス | | |

| | | | | |
|-------------------------|---|----------------|------|----|
| 授業科目 | 法律学(国際法を含む)【講義】 | | 開講時期 | 後期 |
| 担当教員 | 高木 佳世子 | | 単 位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | 1. 法とは何か、法の基礎知識を学び、私たちの生活と法律のかかわりについて考える。 2. 「六法」といわれる法律と労働法、社会保障法について概要を理解する。 3. 国際法について概観する。 | | | |
| 到達目標 | 1. 憲法、行政法、民法、商法、刑法、訴訟法、労働法、社会保障法の趣旨目的について説明できる。 2. 国際法で登場する専門用語のうち基礎的なものについて正しく説明できる。 | | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | ア(3)-②-2 アジアの諸地域の社会事情について、その特徴と課題を説明することができる。 心(1)-① 自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 心(3)-②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。 福(3)-②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初(3)-②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 幼(2)-④ 社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 幼(2)-⑤ 人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 幼(3)-②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 | | | |
| 授業計画 | 授 業 内 容 | 授 業 外 学 修 など | | |
| 第1回 | 社会において法が果たしている役割 | 配付資料を見直して復習する。 | | |
| 第2回 | 裁判による権利実現・被害回復とは | 配付資料を見直して復習する。 | | |
| 第3回 | 刑法 | 配付資料を見直して復習する。 | | |
| 第4回 | 刑事訴訟法 | 配付資料を見直して復習する。 | | |
| 第5回 | 民法①(財産法) | 配付資料を見直して復習する。 | | |
| 第6回 | 民法②(家族法) | 配付資料を見直して復習する。 | | |
| 第7回 | 商法 | 配付資料を見直して復習する。 | | |
| 第8回 | 憲法 | 配付資料を見直して復習する。 | | |
| 第9回 | 労働法 | 配付資料を見直して復習する。 | | |
| 第10回 | 社会保障法 | 配付資料を見直して復習する。 | | |
| 第11回 | 国際法(国際法はどのような形で存在するか) | 配付資料を見直して復習する。 | | |
| 第12回 | 国際法(国際紛争の解決) | 配付資料を見直して復習する。 | | |
| 第13回 | 国際法(国家管轄権) | 配付資料を見直して復習する。 | | |
| 第14回 | 国際法(国際人権法) | 配付資料を見直して復習する。 | | |
| 第15回 | 国際法(戦争と国際法) | 配付資料を見直して復習する。 | | |
| 成績評価 | 割合(%)、種類・評価基準など | | | |
| 定期試験 | なし | | | |
| レポート | あり(100%) | | | |
| 小テスト等 | なし | | | |
| 成果発表 | なし | | | |
| 受講態度他 | 0% | | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | やむをえない欠席、遅刻の場合は、自主的に情報を補い学修するようにしてください。 | | | |
| 教科書 | なし(資料を配付します) | | | |
| 指定図書 | ①谷口貴都・松原哲編著『基礎からわかる法学[第2版]』成文堂、②渡部茂己・喜多義人編『国際法[第2版]』弘文堂 | | | |
| 参考図書 | 講義の際に指示します。 | | | |
| オフィスアワー | 水曜4限 | メールアドレス | | |

| 授業科目 | 臨床心理学概論【講義】 | | 開講時期 | 前期 |
|-------------------------|--|---------|--------------------------------------|----|
| 担当教員 | 板井 修一 | | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | この授業は、人間科学部でこれから学ぶ、「人間理解」と「人間支援」に関わるさまざまな科目の基礎となる臨床心理学を学びます(基礎科目)。人の心の働きと支援のための方法について、重要な視点や知識を、臨床心理学という学問を通して学ぶ授業です。臨床心理学の基本的概念や理論について理解し、正しく説明できるようになることを目的とします。臨床心理学は、生きた人間の心に直接触れ、アプローチしながら形作られてきた学問領域です。そのために、臨床心理学は、他の学問領域とは異なり、独自の人間理解の視点や発想が生み出されて来ました。授業を通して、他の学問領域とは違う臨床心理学の独自性を理解し、その視点を身につけることを目的とします。 | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床心理学独自の人間理解の視点について説明できるようになる。 2. 臨床心理学の成り立ちについて説明することができるようになる。 3. 人間理解の方法としての心理アセスメントの意義について説明することができるようになる。 4. さまざまなこころの病について、その原因や具体的な症状について説明することができる。 | | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | <p>心 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」</p> <p>心 (3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。</p> <p>心 福 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>初 幼 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p><授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 関連する科目：カウンセリング概論、心理アセスメントⅠ・Ⅱ、人本心理学、健康・医療心理学</p> | | | |
| 授業計画 | この科目は障がい児福祉・心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」 | | 記載どおりの実践的教育を行います。 | |
| 第1回 | 臨床心理学とは何か1：臨床心理学の理念・全体構造 臨床心理学の独自性、問題を抱えつつ生きることの援助 | | 「医学モデル」と「成熟モデル」の違いについて整理する | |
| 第2回 | 臨床心理学とは何か2：臨床心理学の実践と研究 他職種とのコラボレーションの重要性、実践活動の有効性を裏付ける科学的研究の意義 | | 「コラボレーション」の意味と意義について整理する 小レポート①をまとめる | |
| 第3回 | 臨床心理学とは何か3：臨床心理学の歴史 精神分析学、行動療法、カウンセリング | | 最近見た夢を記録し、夢の意味するものについて考える | |
| 第4回 | アセスメント1：アセスメントとは何か 診断とアセスメントの違い、アセスメントの手続き | | 診断とアセスメントの意味の違いについて調べる | |
| 第5回 | アセスメント2：検査法(質問紙法、投影法、知能検査、神経学的検査) 質問紙法によるパーソナリティアセスメントの体験的理解 | | 授業で体験した心理テスト結果を分析・解釈し報告書作成 | |
| 第6回 | アセスメント3：観察法・行動分析・生態学的アプローチ・初回面接 観察法によるアセスメントの体験的理解 | | 小レポート②(講義の第3回～第6回の内容に関する課題)をまとめる | |
| 第7回 | 異常心理学1：異常心理学とは何か・精神症状の分類 正常と異常の多元性、心理的機能障害としての各種精神症状 | | 正常と異常の判断基準について復習する | |
| 第8回 | 異常心理学2：統合失調症 統合失調症の臨床症状、類型、心理的援助 | | 統合失調症の症状について調べる | |
| 第9回 | 異常心理学3：気分障害・不安障害 うつ病の臨床症状、気分障害の治療と心理援助のポイント | | うつ病の症状について調べる | |
| 第10回 | 異常心理学4：身体表現性障害と解離性障害 身体表現性障害と解離性障害の臨床症状、類型、心理的援助のポイント | | 心身症の種類と症状について調べる | |
| 第11回 | 異常心理学5：性同一性障害・摂食障害・人格障害 臨床症状と援助のポイント | | 小レポート③(講義の第7回～第11回の内容に関する課題)をまとめる | |
| 第12回 | 発達臨床心理学1：乳幼児期の心理的問題 乳幼児期の発達課題、知的障害、自閉症、学習障害、注意欠陥/多動性障害、虐待 | | ADHDとアスペルガー症候群について調べる | |
| 第13回 | 発達臨床心理学2：児童期・思春期・青年期の心理的問題 児童期・青年期の発達課題、不登校、いじめ、アイデンティティ獲得をめぐるさまざまな | | 児童期・青年期の発達課題について調べる | |
| 第14回 | 発達臨床心理学3：中年期・老年期の心理的問題 中年期・老年期の発達課題、中年期の心理的問題、老年期の心理的問題 | | 小レポート④(講義の第12回～第14回の内容に関する課題)をまとめる | |
| 第15回 | 総括 これまでの講義の重要ポイントのまとめ | | 配布資料、ノート、返却された小レポートの整理 | |
| 成績評価 | 割合(%)、種類・評価基準など | | | |
| 定期試験 | 60% 定期試験(60点満点) | | | |
| レポート | 40% 4回の小レポート [(期日内提出5点+内容5点)×4回=40点] 小レポートは提出後、2週間後を目処に、採点した結果を返却する。 | | | |
| 小テスト等 | 0% | | | |
| 成果発表 | 0% | | | |
| 受講態度他 | 授業の進行を妨げるような私語や離席については、適宜、注意をいたします。 | | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | 学習内容が多いので、講義内容をしっかり聞いて下さい。配布されるプリントに書き込んだり、ノートをきちんとまとめることも大切です。漫然と講義を聞くのではなく、講義内容を自己の体験や観察と照らし合わせながら受講して下さい。毎回の授業で学んだことの振り返りと考えたことを記録する「リフレクション・シート」を、授業の終わりに記入し提出をする。次の講義の初めにチェックした「リフレクション・シート」を返却する。「リフレクション・シート」の提出、返却により、講義への出席と欠席、遅刻の実態を把握する。 | | | |
| 教科書 | なし 毎回レジュメを配布する | | | |
| 指定図書 | なし | | | |
| 参考図書 | 河合隼雄『カウンセリングの実際問題』誠信書房 河合隼雄『心理療法学』岩波書店 | | | |
| オフィスアワー | 火曜日の2時間目 | メールアドレス | | |

| | | | | |
|-------------------------|--|------------------------------------|------|----|
| 授業科目 | 学校心理学【講義】 | | 開講時期 | 後期 |
| 担当教員 | 石原 努 | | 単位 | 2 |
| 授業の目的と概要 | 心理教育的援助サービスに関する基礎的な知識を身につけ、その知識を活用して、学校現場における心理学的な援助の技法を習得することを目的とする。 講義前半では、主に、心理教育的援助サービスの基礎的な知識や技法について学修する。講義後半では、主に、学校現場で起こりうる具体的な子どもに関連する諸問題について考えながら、グループワークを通してその解決策やその技法について学修する。 | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・心理教育的援助サービス（アセスメント・カウンセリング・コンサルテーション・コーディネーション）に関する基礎的な理論体系を説明することができる。 ・学校現場で起こりうる諸問題（いじめ、不登校、学級の荒れ、集団形成、発達障害等）について学校心理学の視点から考察し、それらの諸問題に対する援助策を創造していくことができる。 | | | |
| この授業が目的としているDPや関連する科目など | <p>心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。</p> <p>福 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>初 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>幼 (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。</p> <p><授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は小学校教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p> | | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業外学修など | | |
| 1 | 講義の概要説明とオリエンテーション | 学校心理学の概要について簡潔にまとめる。 | | |
| 2 | 学校心理学の意義と特色 | 学校心理学の意義・特色について簡潔にまとめる。 | | |
| 3 | 学校心理学における心理教育的援助サービス | 心理教育的援助サービスを行う対象とその内容についてまとめる。 | | |
| 4 | 学校心理学における援助方法①：アセスメント | アセスメントの種類や方法を分類・整理しまとめる。 | | |
| 5 | 学校心理学における援助方法②：カウンセリング | カウンセリングの技法等について整理しまとめる。 | | |
| 6 | 学校心理学における援助方法③：コンサルテーション・コーディネーション | コンサルテーション、コーディネーション、チーム援助についてまとめる。 | | |
| 7 | 主に学習に関する心理学的援助 グループワークを通して、解決策等について考える。 | 学習に関する援助の手法について分類整理しまとめる。 | | |
| 8 | 主に学級集団に関する心理学的援助 グループワークを通して、解決策等について考える。 | 集団形成に関する援助の手法についてまとめる。 | | |
| 9 | 主に社会性・道徳性に関する心理学的援助 グループワークを通して、解決策等について考える。 | 社会性・道徳性の発達についてまとめる。 | | |
| 10 | 主にキャリア教育に関する心理学的援助 グループワークを通して、解決策等について考える。 | キャリア教育に関する援助の手法についてまとめる。 | | |
| 11 | 主に健康面に関する心理学的援助 グループワークを通して、解決策等について考える。 | 健康面に関する援助の手法についてまとめる。 | | |
| 12 | 特別支援教育に関する心理学的援助 グループワークを通して、解決策等について考える。 | 発達障害がある子への支援方法についてまとめる。 | | |
| 13 | 学校全体、教師、保護者等を対象とした心理学的援助 グループワークを通して、解決策等について考える。 | 学校全体、教師や保護者に関する援助の手法についてまとめる。 | | |
| 14 | 教師と子どもの信頼関係構築に向けた心理学的援助 グループワークを通して、解決策等について考える。 | 教師の子どもと向き合う基本姿勢についてまとめる。 | | |
| 15 | 学校心理学のまとめと今後の展望 | 学校心理学の役割や心理学的な援助の手法について全体的なまとめを行う。 | | |
| 成績評価 | 割合（％）、種類・評価基準など | | | |
| 定期試験 | なし | | | |
| レポート | 60％ 多面的に課題を吟味し、その支援策について自分の考えをまとめレポートする。 | | | |
| 小テスト等 | なし | | | |
| 成果発表 | 20％ 授業内で、話し合った結果等を発表する。 | | | |
| 受講態度他 | 20％ 課題の討議へ対する取組や、その参加態度等 | | | |
| 受講上の留意点・ルールに関わる情報 | <ul style="list-style-type: none"> ・提出物（レポート）の期限は厳守すること。 ・毎時間の学習した内容を簡潔にまとめること。 ・グループワークには、積極的に参加すること。 | | | |
| 教科書 | なし | | | |
| 指定図書 | なし | | | |
| 参考図書 | 水野治久編著『よくわかる学校心理学』ミネルヴァ書房 学校心理士資格認定委員会『学校心理学ガイドブック』風間書房 | | | |
| オフィスアワー | 月曜日2限、水曜日2限 | メールアドレス | | |